

平成28年度

東京都小学校体育研究会

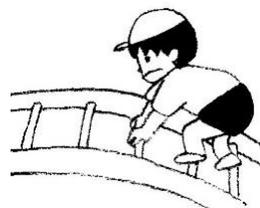
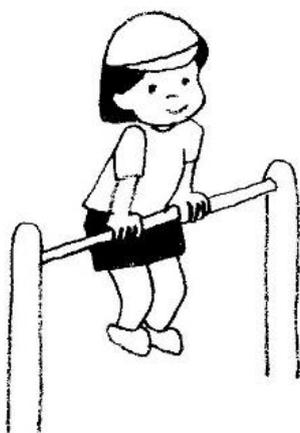
研究主題

一人一人が学ぶことの楽しさを味わい、進んで運動に取り組む力を身に付ける体育学習

器械運動系領域部会

器械運動系領域部会 研究主題

一人一人が運動を楽しく行い、できる喜びを味わう器械運動系の学習
～固定施設・鉄棒を使った運動遊びを通して～



実証授業

授業日 平成28年10月31日(月)
場 所 江戸川区立第六葛西小学校
内 容 第1学年 固定施設・鉄棒を使った運動遊び
授業者 下重 卓也 主任教諭

指導助言

文京区教育委員会
指導主事
藤咲 秀修 先生

もくじ

項目	ページ
1 研究の構想	
(1) 研究主題 (2) 主題設定の理由 (3) 研究構想図	1
(4) 目指す児童像 (5) 研究内容	2
(6) 基礎研究	3～4
2 「技能」「態度」「思考・判断」が三位一体であることに関する資料	
(1) 目標 (2) 評価規準	5
(3) 学習活動に即した評価規準	6
(4) 学習を促す手立て	7
(5) 具体的な学習活動の例	8～9
(6) 「器械・器具を使つての運動遊び」小学校第1学年及び第2学年の具体的な指導内容	10～11
3 調査研究及び考察	
4 研究内容	
(1) 小学校6年間及び幼稚園、中学校との系統性	12～13
① 就学前の運動経験について	
② 小学校6年間及び中学校との系統性	14
③ 運動遊びから技への系統体系(鉄棒運動)	15
(2) 課題解決的な単元計画	
① 低学年の課題解決的な学習について	16
② 低学年の課題解決的な学習を図る単元計画	17～18
ア 鉄棒運動系低学年の単元計画	
イ 進んだ段階 第2時の具体的な進め方	19
ウ 進んだ段階 第6時の具体的な進め方	20
(3) 学習活動に即した指導と評価	
①単元の指導と評価の計画 【はじめの段階】	21
【進んだ段階】	22
②観点別評価の進め方	
ア 「運動への関心・意欲・態度」の評価の方法の例	23～25
イ 「運動への思考・判断の評価」の方法の例	
ウ 「運動の技能」の評価方法の例	
③児童のつまずきと具体的な支援	26
④検証方法について	27～28
(4) 中、高学年の指導計画例	29～30
5 学習指導案	
(1) 単元名 (2) 単元の目標 (3) 単元及び学習活動に即した評価規準	32
(4) 運動の特性	
(5) 児童の実態	33
(6) 単元の指導と評価の計画	34～35
(7) 本時の学習	36

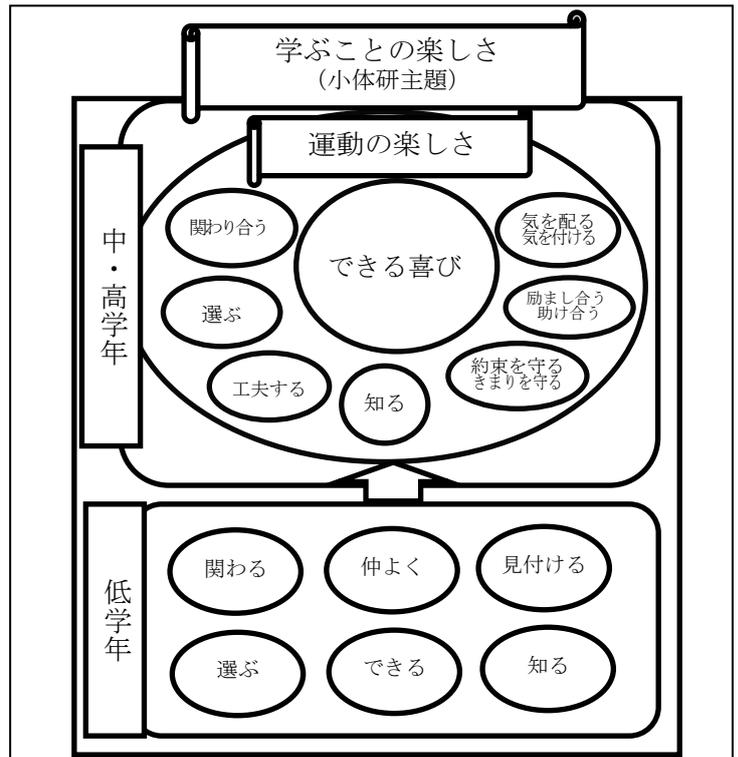
1 研究の構想

(1) 器械運動系領域部会 研究主題

「一人一人が運動を楽しく行い、できる喜びを味わう器械運動系の学習」
～固定施設・鉄棒を使った運動遊びを通して～

(2) 主題設定の理由

「運動の楽しさ」の中には、「取り組む楽しさ」「工夫する楽しさ」「友達と関わり合う楽しさ」などさまざまな楽しさがある。その中でも、「動きができる喜び」をたくさん味わわせ、楽しさを広げることが、中学年以降の器械運動につながっていくと考え、本部会では重視している。これまで「できる喜び（①感覚を身に付ける②動きができる）」を主として研究に取り組んできた。今年度も都小体研では、思考・判断を重点に研究を進めているが、この「できる喜び」は、思考・判断と大きく関連していると捉えている。また、「夢中になり何度も繰り返し運動に取り組んでいる」「自分で動きを考え取り組んでいる」「友達と関わり合っている」「動きのポイントやコツを体感し、身に付けている」など運動を楽しく行う姿を大切にしていきたい。



(3) 研究構想図

体育科の目標

心と体を一体としてとらえ、適切な運動の経験と健康・安全についての理解を通して生涯にわたって運動に親しむ資質や能力の基礎を育てるとともに健康の保持増進と体力の向上を図り、楽しく明るい生活を営む態度を育てる。

都小体研 研究主題

一人一人が学ぶことの楽しさを味わい、進んで運動に取り組む力を身に付ける体育学習

器械運動系領域部 研究主題

一人一人が運動を楽しく行い、できる喜びを味わう器械運動系の学習
～固定施設・鉄棒を使った運動遊びを通して～

基礎研究

- 幼稚園教育要領 幼児期運動指針
- 学習指導要領、及び、解説体育編
- 評価規準の作成、評価方法の工夫改善のための参考資料 (国立教育政策研究所)
- 学校体育実技指導資料集第10集「器械運動指導の手引」

調査研究

- 教員の実態調査
- 実証授業での映像分析や児童の実態調査、聞き取り等による検証方法の検討
- 幼稚園への聞き取り

目指す児童像

「いろいろな運動に取り組む児童 (態度)」 「遊び方を工夫する児童 (思考・判断)」 「動きができる喜びを味わう児童 (技能)」

研究仮説

固定施設・鉄棒を使った運動遊びの学習において、児童が進んでいろいろな動きに取り組んだり、遊び方を工夫したりする学習を進めていくように指導すれば、一人一人が運動を楽しく行い、できる喜びを味わうことができるだろう。

研究内容

- ①課題解決的な単元計画 ②学習活動に即した評価 ③小学校6年間と幼稚園との接続

(4) 目指す児童像

遊び方を工夫する児童（思考・判断）

- ・動きが分かる
- ・行い方が分かる
- ・動きのポイントやコツが分かる
- ・動きを繰り返す、組み合わせる
- ・友達のよい動きを見付け、友達に伝える
- ・友達の動きのまねをする

いろいろな運動に取り組む児童（態度）

- ・きまりを守って
- ・安全に気を付けて
- ・友達と一緒に、仲よく
- ・安心して、進んで

動きができる喜びを味わう児童（技能）

- ・基礎となる感覚を身に付ける
- ・支持、ぶら下がり、逆さ姿勢、回転などの基本的な動きができる
- ・固定施設を使った運動遊びでは、ジャングルジムや雲梯等を使っての登り下りや懸垂移行、渡り歩きや跳び下り、逆さ姿勢などができる
- ・鉄棒を使った運動遊びでは、跳び上がりや跳び下り、ぶら下がり、易しい回転などができる
- ・自分の力にふさわしい動きを身に付ける
- ・友達の動きとつなぎ合わせる

(5) 研究内容

① 課題解決的な単元計画

- ・低学年の課題解決的な学習
- ・低学年（固定施設・鉄棒を使った運動遊び）の単元計画
- ・固定施設、鉄棒を使った運動遊びの場

② 学習活動に即した評価

- ・指導と評価の計画（思考・判断を重点）
- ・評価の進め方
- ・検証について

③ 小学校6年間と幼稚園との接続

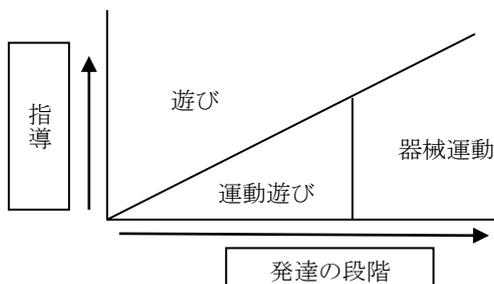
- ・幼稚園教育要領や幼児期運動指針ガイドブックを参考にした運動の内容と指導の系統性
- ・幼稚園からの聞き取り調査

(6) 基礎研究

①運動遊びの捉え方

運動遊びは、児童が楽しい、易しいと感じ行う運動を自己決定できる。ただ、その活動の中で、体育の学習としてねらいがあり、児童にも学びがなければならない。また、動きや場などを変えていくことで、さらに楽しく運動を行えるようになる。

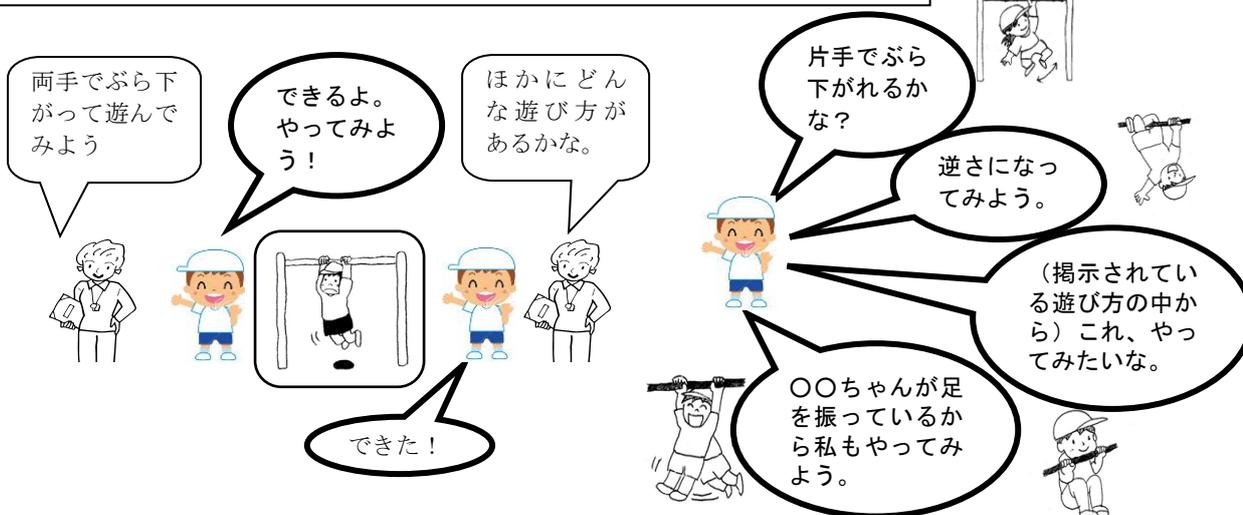
遊ぶこと自体が目的となる。



②器械運動系領域の低学年における「課題」について

運動遊びの捉え方から、低学年の運動遊びの課題とは、児童が、「やってみたい」と自ら決めた動き方や工夫となる。つまり、器械運動の課題のように技をできるようにするものではなく、様々な遊びをしていく中で、児童の課題は変化している。

以下の図は、児童がぶら下がる運動遊びに取り組む中でもつ課題の例



1時間の学習の中で、遊びこむ時間をしっかり確保することにより、児童は様々な課題をもち、たくさんの遊び方を体験し、基本的な動きや、基礎となる感覚を身に付けていく。

器械運動中学年以降の課題について

めあて（今もっている力でどんなことができるか、あるいはどうしたいかなど、活動の内容を表す）

- 1 目標を設定する 自分ができるようになりたい技を見付ける。
例 「後方支持回転ができるようになる。」
- 2 課題を選択する その技をできるようにするために解決する課題を選ぶ。
例 「鉄棒をお腹から離さないようにする。」
- 3 活動を決定する その課題を解決するための活動の仕方を決める。
例 「ロープを使って腰と鉄棒を近付けるようにする。」

（参考 小学校体育指導資料 新しい学力観に立つ 体育科の授業の工夫 H7年 文部省 より）
この、めあてを振り返り、次のめあてを設定する、というサイクルが課題解決型の学習となる。
器械運動系領域部会では、めあてを「技+ポイント+練習方法・場」と捉えている。

③「友達のよい動き」、「よい動き」について

学習指導要領解説体育編の思考・判断の目標の「遊び方を工夫する」という中に、「友達の良い動きを見付ける」という内容がある。この、「よい動き」とは「友達の良い動き」であり、やってみたいな・まねしてみたいなと思う動きのことである。教師は、第3学年へのつながりを見据えて器械運動と関係が深い動きをよい動きとして把握しておく必要があるが、それを児童におしつけるのではなく、児童が見付けた友達の良い動きは認め、教師が器械運動と関係が深いと思う動きを学級全体に広めていくことが重要となる。

④「基礎となる感覚を身に付けさせることが大切である（学習指導要領解説体育編 P15）」の「基礎となる感覚」について。

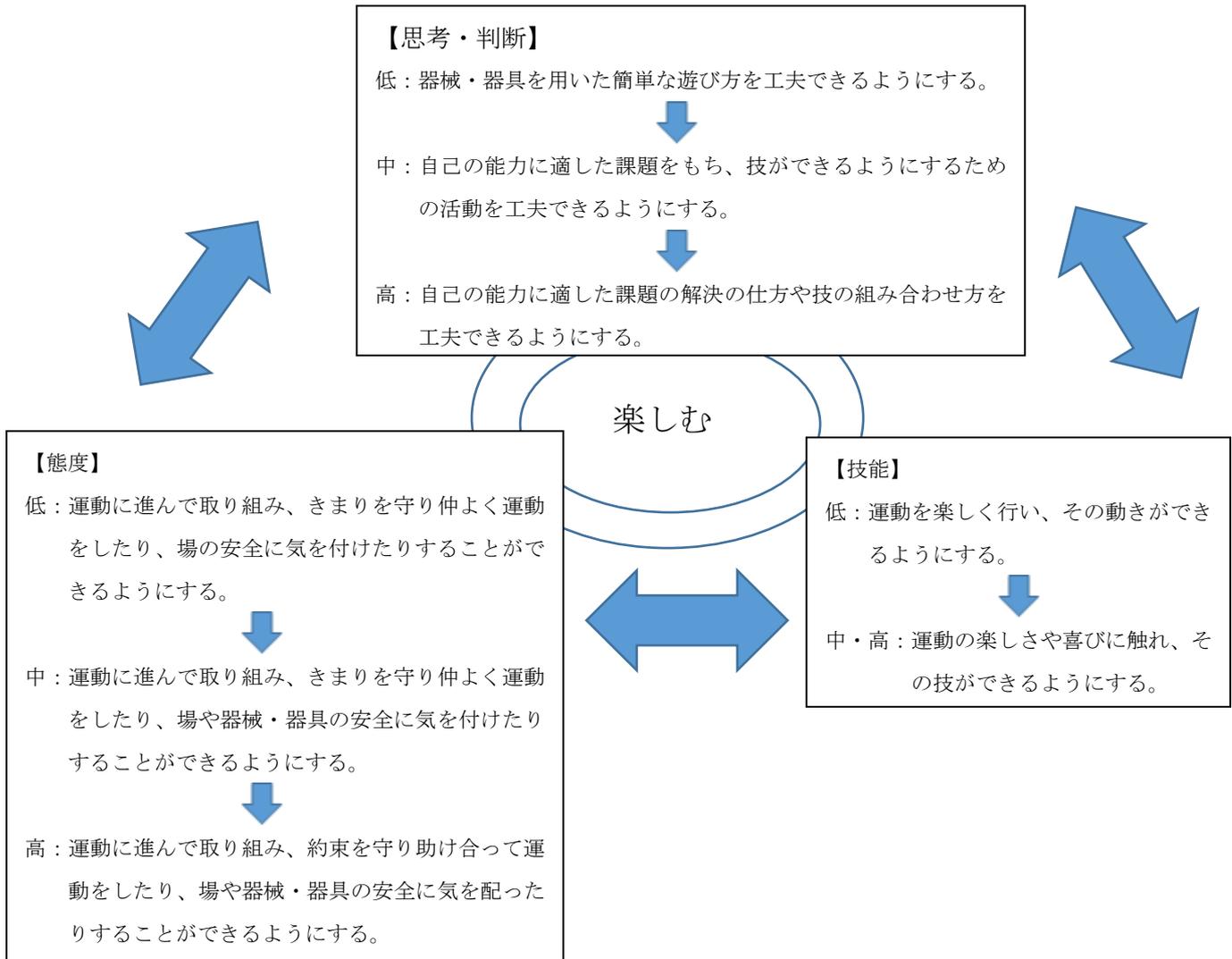
学習指導要領 改訂のポイント（小学校 体育） 平成20年7月 義務教育課の資料より

具体的には、解説書 P15 の 3 行目に、「支持、ぶら下がり、振動、手足での移動、逆さ姿勢、回転など」とある。これは「動き」で、この「動き」のもととなる感覚を示している。
したがって、逆さ感覚であるとか、腕支持感覚といったことを示している。

固定施設を使った運動遊びや、鉄棒を使った運動遊び、鉄棒運動においては、基礎となる感覚として、支持、ぶら下がり、振動、逆さ、回転の感覚があげられる。

2 「技能」「態度」「思考・判断」が三位一体であることに関する指導資料

(1) 目標



(2) 評価規準

	運動への関心・意欲・態度	運動への思考・判断	運動の技能
低	器械・器具を使っての運動遊びに進んで取り組むとともに、順番やきまりを守り仲よく運動をしようとしたり、運動をする場の安全に気を付けようとしたりしている。	器械・器具を用いた運動遊びの行い方を工夫している。	器械・器具を使っての運動遊びを楽しく行うための基本的な動きや各種の運動の基礎となる動きを身に付けている。
中	器械運動の楽しさや喜びに触れることができるよう、進んで取り組むとともに、きまりを守り、仲よく運動をしようとしたり、運動する場や器械・器具の安全を確かめようとしたりしている。	自分の力に合った課題をもち、技ができるようになるための運動の行い方を工夫している。	器械運動の基本的な技を身に付けている。
高	器械運動の楽しさや喜びに触れることができるよう、進んで取り組むとともに、約束を守り、助け合って運動をしようとしたり、運動する場や器械・器具の安全を確かめようとしたりしている。	自分の力に合った課題の解決を目指して、練習の仕方や技の組み合わせ方を工夫している。	安定した基本的な技やその発展技を身に付けている。

(3) 学習活動に即した評価規準・(4) 学習を促す手立て

	運動への関心・意欲・態度	運動についての思考・判断	運動の技能
低	<ul style="list-style-type: none"> ・進んで ・運動の順番やきまりを守り、友達と仲よく ・友達と協力して ・安全に気を付けて 	<ul style="list-style-type: none"> ・運動遊びの行い方を知る ・楽しく遊ぶことができる場や遊び方を選ぶ ・友達のよい動きを見付ける 	<ul style="list-style-type: none"> ・登り下りや懸垂移行、渡り歩きや跳び下り、逆さ姿勢をとったりすることができる ・支持しての上がり下り、ぶら下がりや易しい回転をすることができる
学習を促す手立て	<ul style="list-style-type: none"> ・きまりを守れない児童には、掲示してある運動遊びのきまりを読み直して確認させる ・運動する場の使い方など安全に気を付けている児童を手本にして助言する 	<ul style="list-style-type: none"> ・遊び方やきまりを理解できるように図を提示する ・動きを広げさせるために、友達のよい動きをまねしたり、やってみたりするように声をかける ・遊び方の工夫を掲示し、選べるようにする 	<ul style="list-style-type: none"> ・安全な動きができていない児童には、しっかりと指導する ・動きを高めるために、友達のよい動きをまねしたり、やってみたりするように声をかける
中	<ul style="list-style-type: none"> ・進んで ・きまりを守って ・友達と励まし合って ・安全を確かめて 	<ul style="list-style-type: none"> ・動き方や技のポイントを知る ・自分の力に合った練習方法や練習の場を選ぶ 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分に合った基本的な技ができる
学習を促す手立て	<ul style="list-style-type: none"> ・きまりを守れない児童には、掲示してあるきまりを読み直して確認させる ・友達とめあてを伝え合い、励まし合いながら学習するよう促す 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の能力に適した課題がもてるように、基本的な技のポイントに応じた練習方法と場をのせた学習カードを用意する ・学習カードに記述した児童の動きのこつを全体に紹介する 	<ul style="list-style-type: none"> ・技のポイントを生かして運動するように促す ・グループ指導を行い、児童の状態に応じた具体的な言葉掛けをする
高	<ul style="list-style-type: none"> ・進んで ・約束を守って ・友達と助け合って ・分担された役割を果たす ・安全を保持することに気を配る 	<ul style="list-style-type: none"> ・課題の解決の仕方を知る ・自分の課題に合った練習の場や方法を選ぶ ・技をつなぐ方法を知る ・自分の力に合った技を組み合わせる 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の力に合った安定した基本的な技やその発展技を身に付ける
学習を促す手立て	<ul style="list-style-type: none"> ・器械・器具の扱い方、運動を見る位置など、安全に気を付けて取り組むように指導する ・友達とめあてを伝え合い、教え合いながら学習するよう促す 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の能力に適した課題がもてるように、技のポイントに応じた練習方法と場をのせた学習カードを用意する ・学習カードに記述した児童の動きのこつを全体に紹介する 	<ul style="list-style-type: none"> ・教師や技の上達が見られる児童を模範とし、技のポイントを伝える ・学習カードを参考にして、技のポイントを生かすように言葉をかける

(5) 具体的な学習活動の例

思考・判断、技能、態度を相互に関連付けて学習を進めることで、児童は運動の楽しさを味わえるようになる。実際の活動場面では、思考・判断を促す教師の言葉掛けが重要となる。

第1学年及び第2学年
 思考・判断の目標「器械・器具を用いた簡単な遊び方を工夫できるようにする」
 思考・判断の内容「器械・器具を使った運動遊びの行い方を知る」

楽しく遊ぶことのできる遊び方や場を工夫

友達のよい動きを見付ける

○様々な遊び方を工夫する時間を確保し、一人一人が遊び方を広げる

はじめの段階

雲梯や登り棒、ジャングルジム、鉄棒で遊んでみよう。
※掲示資料

○「基になる動きで遊ぶ」
→「遊び方を工夫して遊ぶ」

鉄棒にぶら下がってみましょう。

見て、見て。できたよ～。

ほかにどんなぶら下がり方ができるかな？

片手を離せるよ。
脚でじゃんけんできるよ。

○友達と一緒に運動し、友達のよい動きを見付ける

進んだ段階

友達の遊び方や動きの中で、やってみたい、まねしたいと思うものがありましたか。

△△さんの後ろ跳び下りは遠くに跳べていたよ。

「はじめのお話」を変えてみよう。

〇〇さんが雲梯で「ふたつとぼし」をやっていたのがすごいと思ったのでまねしてみたい！

『△△さんが、後ろに跳び下りた』
↓
『△△さんが、後ろの大きな池の向こう側に跳び下りた。』
に変えよう！

〇〇さんにやって見せてもらいましょう。どんなところがすごいか？

体がグイーンと前や後ろにゆれています。

どうしたら遠くに跳び下りることができるのかな？

〇〇さんは、脚を前と後ろに大きく振っていますね。

脚を大きく振って、勢いをつけていたよ。

学習を積み重ねることで、感覚や動きも身に付いていく。

- ・基礎となる感覚（腕支持、逆さ、振る、回る、バランスなど）
- ・基本的な動き（支持、ぶら下がり、振動、逆さ姿勢など）
- ・固定施設での、登り下りや懸垂移行、渡り歩きや跳び下り、逆さ姿勢など
- ・鉄棒を使って、跳び上がって支持、支持から跳び下り、両手でぶら下がったの振動、片膝を掛けての振動、腹をかけたのぶら下がり、支持の姿勢から前に回って下りる、両手でぶら下がり前後に足抜き回りなど

安全やきまりなどの態度面については、常に評価し全体に確認する。（鉄棒の握り方 まわりの様子 順番など）

(6) 「器械・器具を使つての運動遊び」 小学校第1学年及び第2学年の具体的な指導内容

①技能について

低学年の技能の内容・・・学習指導要領の内容（学校体育実技指導資料 第10集 器械運動指導の手引き より）

次の運動を楽しく行い、その動きができようにする。

- 【ア】 固定施設を使つた運動遊びでは、登り下りや懸垂移行、渡り歩きや跳び下りをする事。
- 【イ】 マットを使つた運動遊びでは、いろいろな方向への転がり、手で支えての体の保持や回転をする事。
- 【ウ】 鉄棒を使つた運動遊びでは、支持しての上がり下り、ぶら下がりや易しい回転をする事。
- 【エ】 跳び箱を使つた運動遊びでは、跳び乗りや跳び下り、手を着いてのまたぎ乗りや跳び乗りをする事。

小学校低学年の「器械・器具を使つての運動遊び」は、いろいろな器具や用具を使つた動きに楽しく取り組んで、自分の力にふさわしい動きを身に付けたときに喜びを味わうことのできる運動遊びである。運動経験の差などを考慮し、すべての児童が楽しく夢中になって、いろいろな運動遊びに挑戦しながら、支持、ぶら下がり、逆さ姿勢、回転などの基本的な動きができるようになる。また、器械運動につながる動きに意図的に取り組み、基礎となる感覚を身に付けることができるようになる。

【ア】 固定施設を使つた運動遊び

固定施設を使つた運動遊びでは、校庭や体育館にあるジャングルジムや雲梯、登り棒、肋木、平均台などで、いろいろな登り下りや懸垂移行、渡り歩きや跳び下りをして遊んだり、逆さ姿勢などをもって遊んだりすることを取り上げる。ジャングルジムや雲梯などを使つての登り下りや懸垂移行、跳び下り、逆さ姿勢は、鉄棒を使つた運動遊びとも深く関係している。ここでの支持や懸垂、逆さ感覚の経験は、いろいろな器械・器具を使つた動きが身に付くことにもつながり、技能を習得していく上で有効である。

【イ】 マットを使つた運動遊び

マットを使つた運動遊びでは、マットに背中や腹などをつけて、いろいろな方向へ転がって遊んだり、手や背中で支持しての逆立ちなどをして遊んだりすることを取り上げる。前や後ろ、横方向への転がりやかえるの足打ちなど、転がることや支えることにしっかり取り組むことができるようになる。

【ウ】 鉄棒を使つた運動遊び

鉄棒を使つた運動遊びでは、鉄棒を使つて、跳び上がりや跳び下りをして遊んだり、ぶら下がりや回転などをして遊んだりすることを取り上げる。

【エ】 跳び箱を使つた運動遊び

跳び箱を使つた運動遊びでは、跳び箱を使つて、跳び乗りや跳び下りをして遊んだり、馬跳びやタイヤ跳びをして遊んだりすることを取り上げる。ここでは、片足で踏み切つて跳び箱に跳び乗ったり、ジャンプして跳び下りたりすること、両足で踏み切つて跳び箱に両手を着いてまたぎ乗ったり、そこから腕を支点に体重を移動させてまたぎ下りたりすることを指導する。

②態度について

学習指導要領で各段階に示された態度に関する主な表記・・・（学校体育実技指導資料 第10集 器械運動指導の手引き より）

小学校低学年	
【ア】 共通事項	進んで取り組もうとする
【イ】 公正・協力	運動の順番やきまりを守り、友達と仲よく運動をすること
【ウ】 責任・参画	器械・器具の準備や片付けを、友達と一緒にすること
【エ】 健康・安全	器械・器具の使い方や置き方などの場の安全に気を付けること

③思考・判断について・・・（学校体育実技指導資料 第10集 器械運動指導の手引き より）

小学校低学年	
【ア】 知識（小学校では思考・判断）	（行い方）（動き方）
【イ】 思考・判断	簡単な遊び方を工夫

【ア】 「知識」の内容

小学校低学年では、「いろいろな固定施設や器械・器具を使つた運動遊びの行い方」「器械・器具を使つての運動遊びの動き方」が理解できるようにする。

【イ】 「思考・判断」の内容

小学校低学年での「器械・器具を用いた簡単な遊び方を工夫」するとは、楽しく遊ぶことができる場や遊び方を選んだり、友達のよい動きを見付けたりすることである。

④ 年間指導計画の例

月	第1学年											第2学年										
	4	5	6	7	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	9	10	11	12	1	2	3
	固・鉄			マット			跳び箱			固・鉄			マット			跳び箱						
技能	<p style="text-align: center;">それぞれの器械・器具の条件のもとで基本的な動き（支持、ぶら下がり、振動、手足での移動、逆さ姿勢、回転など）ができるようにする</p>																					
	<p>※初めに固定施設や鉄棒を使った運動遊びを行い、基本的な動きを経験することで以降のマットを使った運動遊びや跳び箱を使った運動遊びにつなげていく。</p>											<p>※器械運動と関連の深い動きに取り組み、基礎となる感覚（腕支持、逆さ、振る、回る、バランスなど）を身に付ける。 ※鉄棒を使った運動遊びの学習では、鉄棒で動きを行うことが難しい場合には、固定施設で行うことを保証し、易しい条件で行えるようにする。</p>										
態度	<p style="text-align: center;">器械・器具の使い方や置き方などの場の安全に気を付ける</p>																					
	<p style="text-align: center;">・進んで取り組もうとする ・運動の順番やきまりを守る</p>											<p style="text-align: center;">・友達と仲よく運動をする ・準備や片付けを、友達と一緒にする</p>										
	<p>※準備や片付けが少ない固定施設や鉄棒を使った運動遊びを初めに行い、跳び箱を使った運動遊びは学年の後半に行う。</p>											<p>※グループやペアで運動遊びに取り組み、一緒に運動したり友達のよい動きを見付けたりする活動を大切にする。※友達と一緒に準備や片付けを行うことがスムーズにできるようにする。</p>										
思考・判断	<p style="text-align: center;">楽しく遊ぶことができる場や遊び方を選ぶ</p>																					
	<p>※主に個人で運動遊びに取り組む時間を大切にし、遊び方を工夫することでたくさんの運動遊びを経験できるようにする。たくさんの運動遊びの経験から自分が楽しく遊ぶことができる場や遊び方を選べるようにする。</p>											<p style="text-align: center;">友達のよい動きを見付ける</p> <p>※主にペアやグループで運動遊びに取り組む時間を大切にし、一緒に活動している友達のよい動きを見付けることができるようにする。</p>										

◆固定施設を使った運動遊びと鉄棒を使った運動遊びを別単位として、分けて指導することも考えられる。

3 調査研究及び考察

本部会では固定施設・鉄棒を使った運動遊びを指導した経験のある教員に対して調査を行った。調査する際に教員経験年数を「1年目～5年目」、「6年目～10年目」、「11年以上」の三つの層に分けて調査を行ったが、どの層においても大きな差異は見られず、同等の調査結果が見られた。以下、設問を抜粋し、それぞれから読み取れる傾向と全体の考察を示していく。

(1) 調査問題概要

[実施期間] 平成28年7月

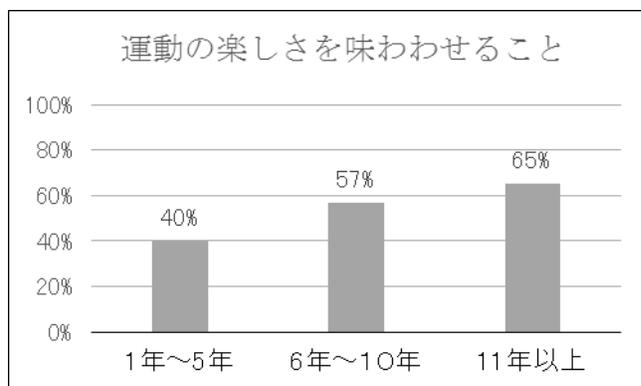
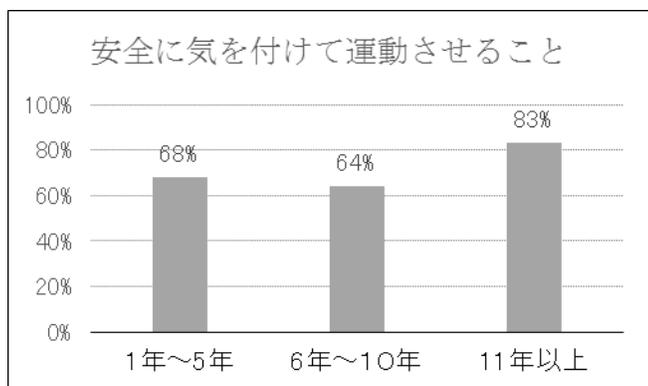
[調査対象] 都小体研器械運動領域系部員が所属する学校の教員で、第1・2学年における「固定施設・鉄棒を使った運動遊び」を指導した経験のある者

[回答(者)数] 179名

(2) 抜粋した各設問の傾向 (複数回答可)

(設問A) 固定施設・鉄棒を使った運動遊びの指導について特に重視していることに○を付けてください。

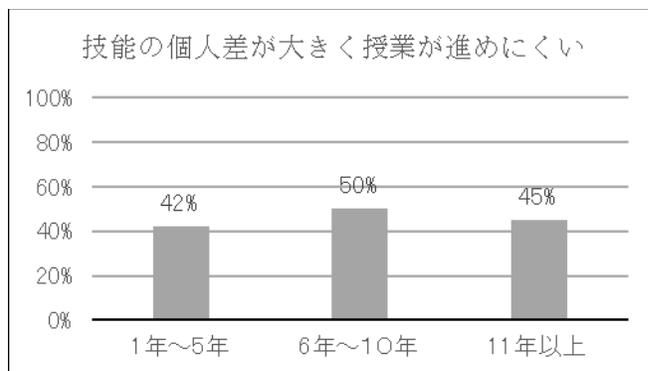
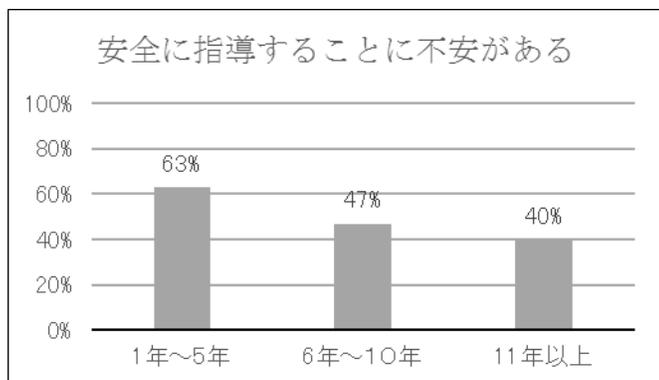
●傾向 (上記設問項目から1番回答率が多かったもの。また、2番目に回答率が多かったものから抜粋)



「安全に気を付けて運動させること」が、経験年数に関係なく、指導をする際の重視する点として高い傾向にある。また、「運動の楽しさを味わわせること」についても経験年数に関係なく4割以上の教員が重視して指導に当たっていたことが分かる。固定施設・鉄棒を使った運動遊びでは、特に安全面に留意し、運動の楽しさを味わわせようとしていることが分かった。

(設問B) 固定施設・鉄棒を使った運動遊びの指導で特に困っていることに○を付けてください。

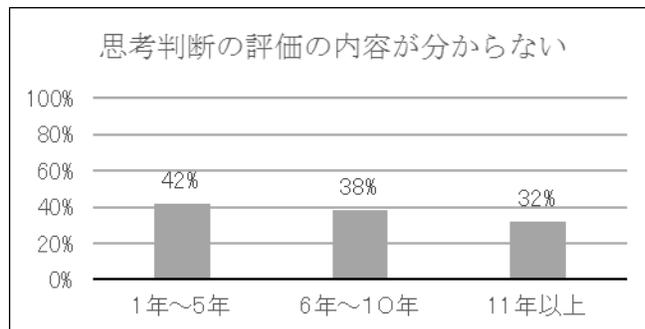
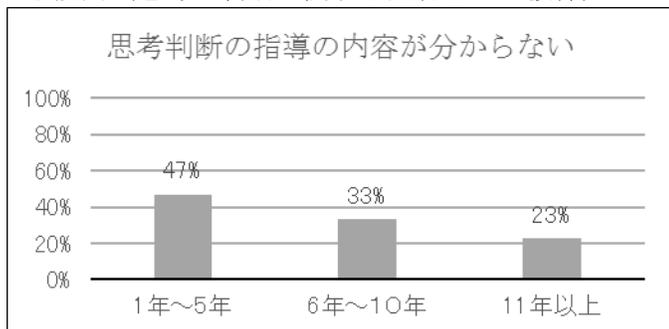
●傾向 (上記設問項目から1番回答率が多かったもの。また、2番目に回答率が多かったものから抜粋)



特に重視していることに安全面が挙げられていたが、特に困っていることにも「安全に指導することに不安がある」ことが挙げられている。また、「技能の個人差が大きく授業が進めにくい」という実態も多いことが分かった。固定施設・鉄棒を使った運動遊びにおいて、技能の個人差を理由に授業の進めにくさを感じている教員が約半数程度見られた。

(設問B) 固定施設・鉄棒を使った運動遊びの指導で特に困っていることに○を付けてください。

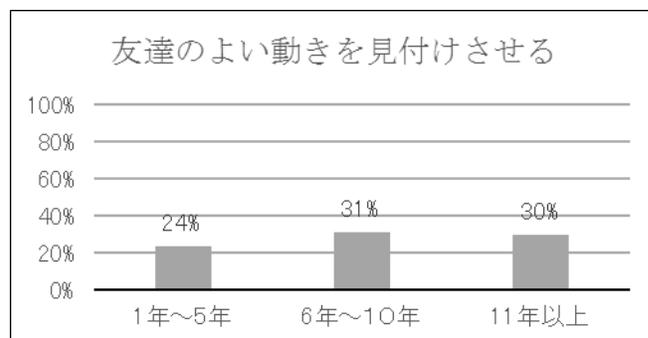
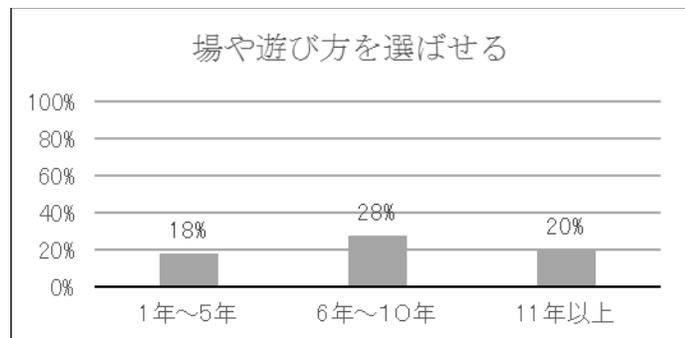
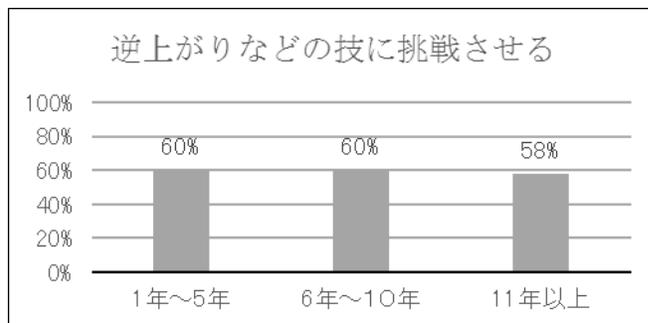
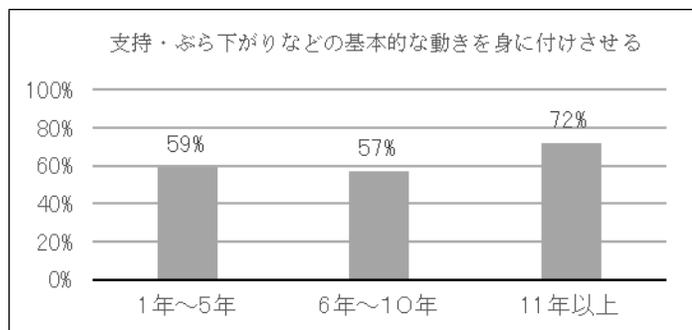
●傾向 (思考・判断に関する回答を2つ抜粋)



思考・判断の指導については、全体の2割～5割程度の教員が分からないと回答している。また、思考・判断の評価についても3割～4割程度の教員が分からないと答えている。

(設問C) 固定施設・鉄棒を使った運動遊びの授業でどんなことを取り入れましたか。

●傾向 (回答率が多かった選択肢を4つ抜粋)



支持・ぶら下がりなどの基本的な動きを身に付けさせることを重視して指導していることが分かる。その一方で、低学年の指導内容にない「逆上がりなどの技に挑戦させる」の項目に約6割の教員が答えていることが分かった。また、「友達のよい動きを見付けさせること」や「場や遊び方を選ばせること」を指導に取り入れている教員は3割程度以下で、思考・判断の指導を行っていないという実態も見られた。

(3) 全体の考察

- ①多くの教員が固定施設・鉄棒を使った運動遊びにおいて安全に留意して学習させることに不安があることが分かった。(設問AおよびB) → 固定施設・鉄棒の安全について資料参照
- ②低学年の指導内容にない「逆上がりなどの技に挑戦させる」というような指導が行われている実態があった。
- ③6割以上の教員が思考・判断に関する指導内容を理解しているという調査結果であったが、「場や遊び方を選ばせること」や「友達のよい動きを見付けさせること」を指導の中で取り入れている教員が少ないことが分かった。(設問BおよびC) → 思考・判断に関する資料参照

以上のことから、固定施設・鉄棒を使った運動遊びの学習において、

- ①「安全に学習できるような授業展開を示すこと」
- ②「運動遊びの学習内容を明確に示すこと」
- ③「課題解決的な単元計画とその評価の仕方を示すこと」を本部会で提案していく。

4 研究内容

(1) 小学校6年間及び幼稚園との系統性

①就学前の運動経験について

ア 基礎研究

基礎研究を行うにあたり、『幼稚園教育要領解説』及び『幼児期運動指針ガイドブック』を参考に「固定施設・鉄棒を使った運動遊び」に関連する内容を整理した。そこから以下のようなことが明らかになった。

『幼稚園教育要領解説』	幼児期の運動は鉄棒や固定遊具を使った運動遊びだけでなく、全ての生活の中から各領域のねらいを達成するものである。
『幼児期運動指針 ガイドブック』	<p>幼児期の運動の在り方として幼稚園、保育所などに限らず、家庭や地域での活動も含めた一日の生活全体の身体活動を合わせて、<u>幼児が様々な遊びを中心に</u>、毎日、合計60分以上楽しく体を動かすことが望ましい。またその推進として以下3点が重要である。</p> <p>①多様な動きが経験できるように様々な遊びを取り入れること ②楽しく体を動かす時間を確保すること ③発達の特性に合った遊びを提供すること</p>

また、園児の幼稚園での運動経験を把握するために今年度は幼稚園での聞き取り調査を行い、現状を把握することとした。聞き取り調査を行ったのが数園であるのは、それぞれの園での活動形態が幅広く異なる実態を鑑み、統計的な調査ではなく、より各園の実態を深く知るためである。また、聞き取り調査は公立幼稚園を対象とした。理由は小学校での研究内容は公立小学校を基本的に対象としている点、中学校への接続を考える際には公立中学校を対象としている点からである。

イ 公立幼稚園での聞き取り調査より

公立幼稚園で聞き取り調査を行った事で具体的に分かったのは以下の3点である。

- 個人差がある →園児全員が同じ時間に鉄棒に取り組んでいるわけではない。
- 日常生活全体で →運動感覚は日常生活全体を通して養われていると考えている。
- 「テーマ」の設定→環境を変化させ、園児が自然とその世界に没入できるような工夫を保育者が意図的に行っている。

ウ 実証授業校近隣の幼稚園での聞き取り調査より

実証授業校の近隣には公立幼稚園がなく、児童は保育園や私立の幼稚園から就学してくる。そこで、近隣の数園に聞き取り調査を行った。その結果、以下の3点が分かった。

- 園により「鉄棒・固定施設に関連する遊び」についての取り組みには差がある。遊びの中で習得させているところもあれば、外部から講師を招き、技の習得を最初から目的にしている園もある。
- 就学前より遊び自体に対する好き・嫌いの差や技能の差がある。
- 運動経験の個人差がある。

エ 幼稚園との接続から考えた実証授業に向けた手立て

○「やってみる」時間の設定→ 単元計画の【はじめの段階】の第1時及び第4時。

今までの遊びの経験を基に固定施設・鉄棒で運動遊びに取り組む。

○「テーマ」の設定→ 児童が運動遊びの世界に没入できるようなテーマ。

「ぼうけんじまへ レッツゴー」

○「運動遊び」を意識した授業の展開→たくさん運動する中でたくさんの経験に幅広く触れさせる。

「やってみる」「知る」「広げる」の学習活動の設定。

②小学校 6年間及び幼稚園、中学校との系統性

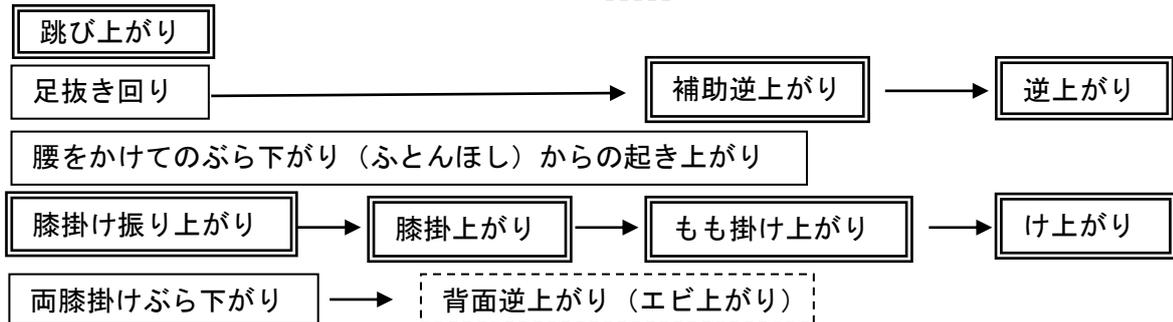
【内容の構成、目標】

	幼稚園	小学校		
		器械・器具を使つての運動遊び → 器械運動		
		1・2年	3・4年	
内容の構成	健康 ・健康な心と体の育成 ・健康で安全な生活をつくり出す力の醸成	固定施設を使った運動遊び	マットを使った運動遊び	マット運動
			・いろいろな方向への転がり ・手で支えて体の保持や回転	・基本的な回転技や倒立技
			鉄棒を使った運動遊び	鉄棒運動
			・支持しての上がり下り ・ぶら下がりや易しい回転	・基本的な上がり技や支持回転技、下り技
目標	健康 (1) 明るく伸び伸びと行動し、充実感を体験 (2) 体を十分に動かし、進んで運動 (3) 健康、安全な生活に必要な習慣や態度	技 態 思・判	跳び箱を使った運動遊び	跳び箱運動
			・跳び乗りや跳び下り ・手を着いてのまたぎ乗りや跳び乗り	・基本的な支持跳び越し技
			楽しく行い、その動きを達成	楽しさや喜びに触れ、技の達成
			・進んで取り組み、きまりを守り仲よく運動 ・場の安全に注意	・進んで取り組み、きまりを守り仲よく運動 ・場や器械・器具の安全を確認
			器械・器具を用いた簡単な遊び方を工夫	・自己の能力に適した課題 ・技の達成のための活動を工夫

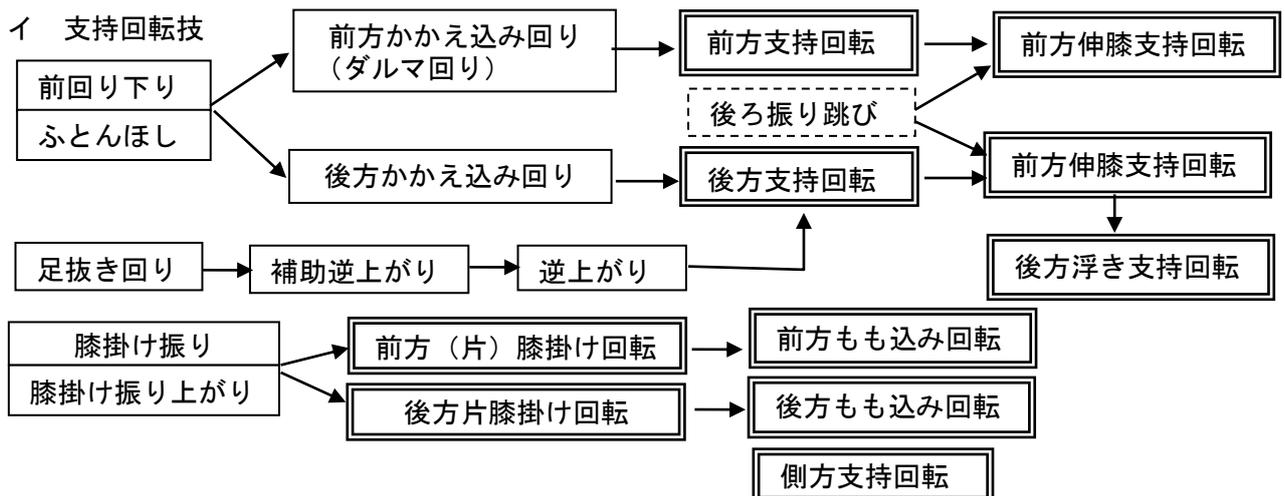
③運動遊びから技への系統体系（鉄棒運動）

- …学習指導要領解説に例示されている運動
- …学習指導要領解説にそれ以外の技として例示されている運動
- …学習指導要領解説に例示されていない運動

ア 上がり技

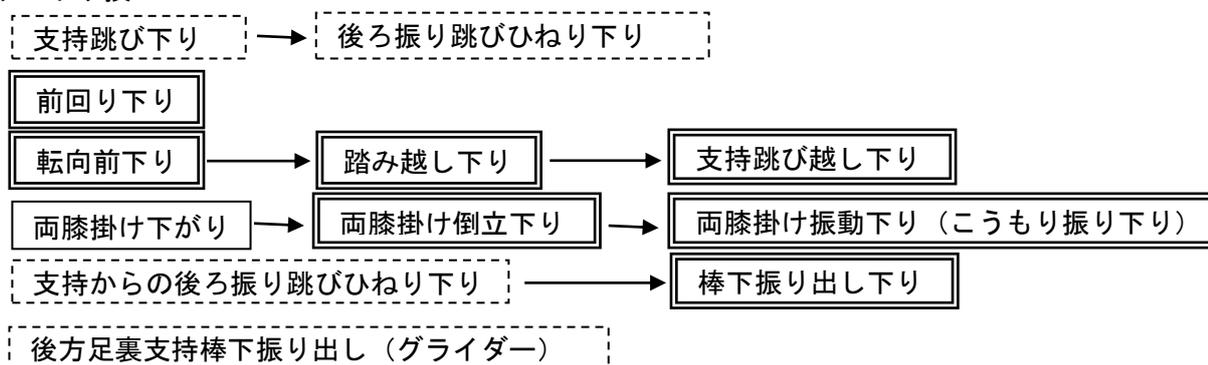


イ 支持回転技

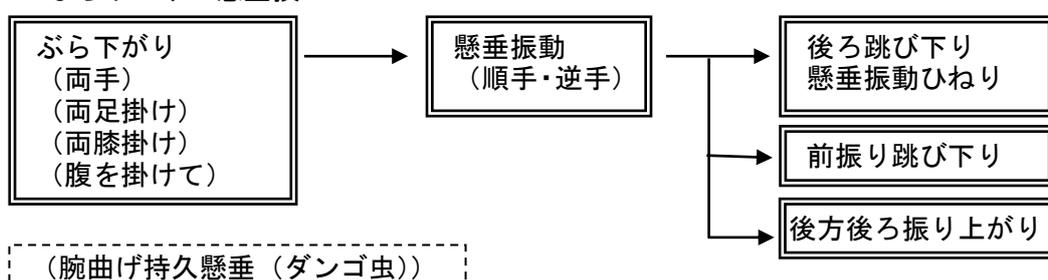


小学校	中学校	
器械運動	器械運動	
5・6年	1・2年	3年
マット運動	マット運動	
<ul style="list-style-type: none"> 安定した基本的な回転技や倒立技 発展技や、繰り返し、組み合わせ 	<ul style="list-style-type: none"> 滑らかな（3年 滑らかに安定した）回転系や巧技系の基本的な技 条件を変えた技、発展技 	<ul style="list-style-type: none"> 組み合わせ 構成し演技
鉄棒運動	鉄棒運動	
<ul style="list-style-type: none"> 安定した基本的な上がり技や支持回転技、下り技 発展技や繰り返し、組み合わせ 	<ul style="list-style-type: none"> 滑らかな（3年 滑らかに安定した）支持系や懸垂系の基本的な技 条件を変えた技、発展技 	<ul style="list-style-type: none"> 組み合わせ 構成し演技
跳び箱運動	跳び箱運動	
<ul style="list-style-type: none"> 安定した基本的な支持跳び越し技 発展技 	<ul style="list-style-type: none"> 滑らかな（3年 滑らかに安定した）切り返し系や回転系の基本的な技 条件を変えた技、発展技 	
	<ul style="list-style-type: none"> 技ができる楽しさや喜び その技をよりよく達成 	<ul style="list-style-type: none"> 技ができる楽しさや喜び 自己に適した技で演技
<ul style="list-style-type: none"> 進んで取り組み、約束を守り助け合って練習 場や器械・器具の安全に配慮 	<ul style="list-style-type: none"> 積極的に取り組み、よい演技を承認 分担した役割を果たし健康安全に配慮 	<ul style="list-style-type: none"> 自主的に取り組み、よい演技を称賛 自己の責任を果たし、健康安全を確保
<ul style="list-style-type: none"> 自己の能力に適した課題の解決の仕方 技の組み合わせ方 	課題に応じた運動の取り組み方を工夫	自己の課題に応じた運動の取り組み方を工夫
※幼稚園教育要領、小学校学習指導要領解説体育編、中学校学習指導要領解説保健体育編からキーワードを抜粋して作成	知識 特性や成り立ち、技の名称や行い方、関連して高まる体力などを理解	技の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などを理解

ウ 下り技



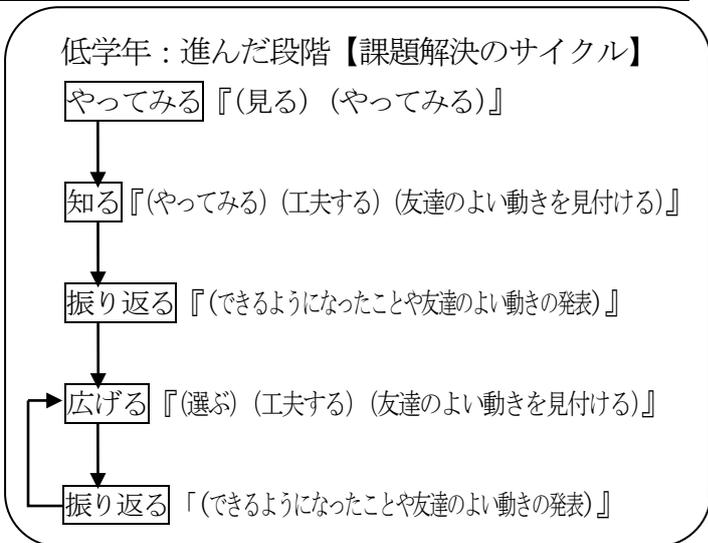
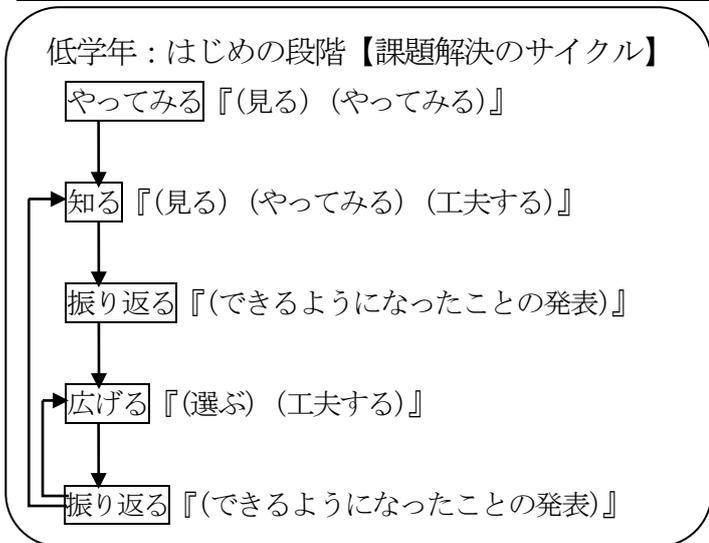
エ ぶら下がり・懸垂技



(2) 課題解決的な単元計画

①低学年の課題解決的な学習について

発達段階	低学年	中学年	高学年	
時期	各種の運動の基礎を培う時期		多くの領域の学習を経験する時期	
味わわせた 楽しさ	基本的な動きに幅広く取り組む楽しさ		全ての領域の特性や魅力に触れる楽しさ	
特性	いろいろな動きに楽しく取り組んで、自分の力にふさわしい動きを身に付けたときに喜びを味わうことのできる運動である。	○技を身に付けたり、新しい技に挑戦したりするときに楽しさや喜びを味わうことのできる運動である。 ○より困難な条件の下でできるようになったり、より雄大で美しい動きができるようになったりする楽しさや喜びがある運動である。		
課題	支持、ぶら下がり、振動、手足での移動、逆さ姿勢、回転などの基本的な動きができるようになったり、動き方を工夫したりすること。	○一人一人の児童が自己の能力に適した技に取り組んだり、その技がある程度できるようにしたりするとともに、同じ技を繰り返したり、技を組み合わせたこと。 ○跳び箱運動においては安定した着地で跳び越すことができるようにすること。 ○集団で運動に取り組む、一人一人ができる技を組み合わせ、調子を合わせて演技する活動を取り入れることもできる。		
学習	○多様な動き方や遊び方をイメージできるように図で掲示する。 ○集団で取り組める遊びを工夫する。 ○器械運動と関連の深い動きを、意図的に取り混ぜ、基礎となる感覚を身に付けさせる。	○すべての児童が技を身に付ける喜びを味わうことができるようにする。 ○自己の技能の程度に応じた技を選ぶ。 ○課題が易くなるような場や補助具を活用して取り組む。 ○一人一人が自己の課題をもって工夫しながら取り組む。 ○仲間と互いに励まし合い、助け合って、学習を進める。 ○技の選び方、器械・器具の点検、安全な場の確保をする。		
内容	技能	楽しく行い、できるようにする		
	態度	進んで きまりを守り 仲よく 準備や片付け 安全	進んで きまりを守り 励まし合って 準備や片付け 安全	進んで 約束を守り 助け合って 準備や片付け 安全
	思考・ 判断	場や遊び方を選ぶ 友達のよい動きを見付ける	練習方法や場を選ぶ 自分の力に合った課題を選ぶ	練習の場や段階を選ぶ 自分の力に合った技を組み合わせること



低学年の課題が技能の内容と思考・判断の内容を含んでいると捉え、それを解決していく学習はどちらの段階においても思考・判断を働かせながら技能を身に付けるような学習が考えられる。単元を通した「やってみる」→「知る」→「振り返る」→「広げる」→「振り返る」という課題解決的なサイクルは1単位時間内でも行われている。また「知る」や「広げる」時間の中でもこのサイクルをそれぞれ行い繰り返すことで、課題である技能や思考・判断が身に付くと考える。また、教師の言葉掛けなど関わり方も重要である。

②低学年の課題解決的な学習を図る単元計画

ア 鉄棒運動系低学年の計画

【はじめの段階】

1	2	3	4	5	6	7
オリエンテーション ・準備運動 ・安全面について やってみる ○今までの遊びの経験を基に固定施設で取り組む ・ジャングルジム ・雲梯 ・登り棒 ・たいこ橋	・学習の流れの確認 ・準備運動					
知る 固定施設を使った運動遊び ①それぞれの場で基になる動きを知り、取り組む ②基になる動きの遊び方を工夫して取り組む 1時：ジャングルジム、雲梯 2時：登り棒、たいこ橋	広げる 固定施設を使った運動遊び ○知る時間に出てきた遊び方から選んだり、さらに遊び方を考えたりして取り組む 2時：ジャングルジム、雲梯 3時：登り棒、たいこ橋	広げる 固定施設 ○4つの場から楽しく遊べる場と遊び方を選んで取り組む	やってみる ○今までの遊びの経験を基に鉄棒で運動遊びに取り組む	広げる 鉄棒を使った運動遊び ○知る時間に出てきた遊び方から選んだり、さらに遊び方を考えたりして取り組む 5時：跳び上がり・跳び下り 6時：ぶら下がり・易しい回転	広げる 固定施設 ○4つの場から楽しく遊べる場と遊び方を選んで取り組む	広げる 鉄棒 ○4つの動きから楽しく遊べる場と遊び方を選んで取り組む
	学びの深まり		学びの深まり			
・整理運動 ・学習の振り返り ・学習のまとめ						

【進んだ段階】

1	2	3	4	5	6	7
オリエンテーション ・準備運動 ・安全面について やってみる ○はじめの段階で出てきた工夫した遊び方に取り組む(個々で) ※掲示物を見ながら取り組む ※どの場で行ってもよい	・学習の流れの確認 ・準備運動					
	知る 固定施設を使った運動遊び ○はじめの段階の基になる動きにグループで取り組む ※2つの場に分かれてグループごとにローテーションで取り組む	知る 鉄棒を使った運動遊び ○友達のよい動きを見付けながら遊ぶ ※基になるお話に合わせて遊ぶ Ex)おさるさんが回ったよ こうもりさんがぶらぶらゆれているよ ※2つの場に分かれてグループごとにローテーションで取り組む	広げる 固定施設を使った運動遊び ○動きや遊び方を工夫しながら遊ぶ ※遊びたい場を選び、集まったメンバーで遊ぶ ※掲示物を見ながら取り組む ※どこの場で行ってもよい	広げる 鉄棒を使った運動遊び ○友達のよい動きを見付けながら遊ぶ ※基になるお話を工夫しながら遊ぶ Ex)おさるさんが回ったよ →おさるさんが後ろに回ったよ 何回も回ったよ ※2つの場に分かれてグループごとにローテーションで取り組む	広げる 鉄棒を使った運動遊び ○友達のよい動きを見付けながら遊ぶ ※基になるお話を工夫しながら遊ぶ Ex)おさるさんが回ったよ →おさるさんが後ろに回ったよ 何回も回ったよ ※遊びたい場を選び、集まったメンバーで遊ぶ	広げる 鉄棒を使った運動遊び ○動きや遊び方を工夫しながら遊ぶ ※遊びたい場を選び、集まったメンバーで遊ぶ ※掲示物を見ながら取り組む ※どこの場で行ってもよい
・整理運動 ・学習の振り返り ・学習のまとめ						

イ 低学年における各時間に設定した学習活動について

やってみる時間
【考え方】 ○今までの遊びや学習の経験を基に運動遊びに取り組む。 <はじめの段階> ・今までの遊びの経験をもとに運動遊びに取り組む。 <進んだ段階> ・はじめの段階で出てきた工夫した運動遊びに取り組む。

知る時間
【考え方】 ○運動遊びの行い方や基になる動きの動き方を知る。 <はじめの段階> ・基になる動きを知り、取り組む。 ・基になる動きの遊び方を工夫して取り組む。 <進んだ段階> ・はじめの段階の基になる動きにグループで取り組む。 ・はじめの段階の基になる動きをお話に合わせて遊んだり、友達のよい動きを見付けたりしながらグループで取り組む。

広げる時間
【考え方】 ○楽しく遊ぶことのできる場や遊び方を選んだり、友達のよい動きを見付けたりする。 <はじめの段階> ・楽しく遊べる場や知る時間で出てきた遊び方を選んだり、さらに遊び方を考えたりして取り組む。 <進んだ段階> ・グループで基になるお話を工夫したり、友達のよい動きを見付けたりしながら取り組む。

イ 進んだ段階 第2時の具体的な進め方

技 能	登り下りや懸垂移行、渡り歩きや跳び下り、逆さ姿勢をとったりすることができるようにする。
態 度	運動の順番やきまりを守り、友達と仲よく運動することができるようにする。
思考・判断	固定施設や鉄棒を使った運動遊びの行い方を知ることができるようにする。

児童の学習活動	○教師の支援 ☆評価（評価方法）										
(1) 集合・整列・挨拶 (2) 準備運動 (3) 学習の流れの確認	○服装の確認をする。 ○音楽に合わせて楽しく行いながら、一つ一つの部位を意識できるよう言葉掛けをする。 ○本時の流れを確認する。										
ともだちと なかよく ぼうけんしよう！											
(4) 知る時間【固定施設】 ・2つの場をローテーションして、はじめの段階に出てきた遊びの中からグループでやってみたい遊び方を選んだり、さらに遊び方を工夫したりして遊ぶ。	○遊び方を工夫して遊べるようにはじめの段階に出てきた遊び方を掲示資料に加えておく。 ○はじめにどの場でどんな遊び方をしたいか確認する。 ○新しい遊び方を考えたら、グループの友達に紹介しよう言葉掛けをする。 ☆運動の順番やきまりを守り、友達と仲よく運動しようとしている。（態度）【観察・カード・聞き取り】										
(5) 知る時間【鉄棒（高・低）】 ・それぞれの場で基になるお話を知り、遊ぶ。	○基になるお話ははじめの段階で出てきた遊びを使用するようにする。 ○友達の動き方に合ったお話を考える。 ○友達の考えたお話に合わせて遊ぶ。 ○基になるお話に取り組んだら、お話を工夫させる。 ○基になる動きができない児童にもお話に合わせて遊ぶよう言葉掛けをする。 ○鉄棒で動きを行うことが難しい場合には、固定施設で行うことを保証し、易しい条件で行えるようにする。 ☆鉄棒を使った運動遊びの行い方を知っている。 (思考・判断)【観察・カード・聞き取り】										
<table border="1" style="margin: auto;"> <tr> <td style="padding: 2px;">A：高鉄棒</td> <td style="padding: 2px;">B：低鉄棒</td> </tr> <tr> <td colspan="2" style="text-align: center; padding: 2px;">↓</td> </tr> <tr> <td colspan="2" style="text-align: center; padding: 2px;">遊び方の工夫を全体で共有</td> </tr> <tr> <td colspan="2" style="text-align: center; padding: 2px;">↓</td> </tr> <tr> <td style="padding: 2px;">A：低鉄棒</td> <td style="padding: 2px;">B：高鉄棒</td> </tr> </table>	A：高鉄棒	B：低鉄棒	↓		遊び方の工夫を全体で共有		↓		A：低鉄棒	B：高鉄棒	
A：高鉄棒	B：低鉄棒										
↓											
遊び方の工夫を全体で共有											
↓											
A：低鉄棒	B：高鉄棒										
(6) 整理運動	○よく使った部位をほぐすように言葉掛けをする。										
(7) 学習の振り返り	○どんな遊び方の工夫をして遊んだのが楽しかったかを振り返らせる。 ☆友達と協力して、準備や片付けをしようとしている。 (態度)【観察・カード・聞き取り】										
(8) 学習のまとめ	○遊び方を工夫して遊んでいた児童を紹介する。 ○休み時間に取り組んで見つけた遊び方も先生に伝えてよいとする。										
(9) 集合・整列・挨拶											

ウ 進んだ段階 第6時の具体的な進め方

技 能	支持しての上がり下り、ぶら下がり、易しい回転をすることができるようにする。
態 度	鉄棒を使った運動遊びに進んで取り組むことができるようにする。
思考・判断	鉄棒を使って、楽しく遊ぶことができる場や遊び方を工夫することができるようにする。

児童の学習活動	○教師の支援 ☆評価（評価方法）										
(1) 集合・整列・挨拶 (2) 準備運動 (3) 学習の流れの確認	○服装の確認をする。 ○音楽に合わせて楽しく行いながら、一つ一つの部位を意識できるよう言葉掛けをする。 ○本時の流れを確認する。										
てつぼうじまで たのしく ぼうけんしよう！											
(4) 広げる時間 【鉄棒（高・低）】 ・友達のよい動きを見付けながら、グループでお話に合わせて遊ぶ。	○友達の動き方に合ったお話を考える。 ○友達の考えたお話に合わせて遊ぶ。 ○体の姿勢、振動や回転の方向などの動きや人数などの遊び方の工夫を見つけ、全体で共有できるようにする。 ○基になる動きができない児童にもお話に合わせて遊ぶよう言葉掛けをする。 ○鉄棒で動きを行うことが難しい場合には、固定施設で行うことを保証し、易しい条件で行えるようにする。 ☆鉄棒を使って、楽しく遊ぶことができる場や遊び方を工夫している。（思考・判断）【観察・カード・聞き取り】										
<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%; text-align: center;">A：高鉄棒</td> <td style="width: 50%; text-align: center;">B：低鉄棒</td> </tr> <tr> <td colspan="2" style="text-align: center; border-top: 1px solid black; border-bottom: 1px solid black;">遊び方の工夫を全体で共有</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">A：低鉄棒</td> <td style="text-align: center;">B：高鉄棒</td> </tr> </table>	A：高鉄棒	B：低鉄棒	遊び方の工夫を全体で共有		A：低鉄棒	B：高鉄棒	○遊び方を工夫して遊べるように前時に出てきた遊び方を掲示資料に加えておく。 ○初めにどの動きでどんな遊び方をしたいか確認する。 ○新しい遊び方を考えたら、友達に紹介するよう言葉掛けをする。 ☆鉄棒を使った運動遊びに進んで取り組もうとしている。（態度）【観察・カード・聞き取り】				
A：高鉄棒	B：低鉄棒										
遊び方の工夫を全体で共有											
A：低鉄棒	B：高鉄棒										
(5) 広げる時間 【跳び上がり・支持】【跳び下り】 【ぶら下がり】 【易しい回転】 ・これまでに出来た鉄棒を使った遊び方からやってみたい遊び方をグループで選んだり、さらに遊び方を工夫したりして遊ぶ。	○体の姿勢、振動や回転の方向などの動きや人数などの遊び方の工夫を見つけ、全体で共有できるようにする。 ☆鉄棒を使った運動遊びの中で友達のよい動きを見付けている。（思考・判断）【観察・カード・聞き取り】										
<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%; text-align: center;">【跳び上がり・支持】【跳び下り】</td> <td style="width: 50%;"></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">【ぶら下がり】</td> <td style="text-align: center;">【易しい回転】</td> </tr> <tr> <td colspan="2" style="text-align: center; border-top: 1px solid black; border-bottom: 1px solid black;">遊び方の工夫を全体で共有</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">【跳び上がり・支持】【跳び下り】</td> <td style="text-align: center;">【ぶら下がり】</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">【ぶら下がり】</td> <td style="text-align: center;">【易しい回転】</td> </tr> </table>	【跳び上がり・支持】【跳び下り】		【ぶら下がり】	【易しい回転】	遊び方の工夫を全体で共有		【跳び上がり・支持】【跳び下り】	【ぶら下がり】	【ぶら下がり】	【易しい回転】	○よく使った部位をほぐすように言葉掛けをする。 ○どんな遊び方の工夫をして遊んだのが楽しかったかを振り返らせる。 ○遊び方を工夫しながら遊ぶ中で、動きが高まっている児童を紹介する。 ○鉄棒を使って、たくさんの遊び方ができたことを伝え、達成感をもたせられるようにする。
【跳び上がり・支持】【跳び下り】											
【ぶら下がり】	【易しい回転】										
遊び方の工夫を全体で共有											
【跳び上がり・支持】【跳び下り】	【ぶら下がり】										
【ぶら下がり】	【易しい回転】										
(6) 整理運動 (7) 学習の振り返り (8) 学習のまとめ											
(9) 集合・整列・挨拶											

(3) 学習活動に即した指導と評価

①単元の指導と評価の計画

【はじめの段階】

時間	主な学習活動	学習活動に即した評価規準【評価方法】		
		運動への関心・意欲・態度	運動についての思考・判断	運動の技能
1	<p>固定施設を使った運動遊びの行い方を知り、楽しく遊ぶ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・やってみる時間（今までの経験を基に取り組む） ・知る時間（運動遊びの行い方を知る） 	<p>④運動をする場や固定施設の使い方などの安全に気を付けようとしている。</p> <p>【観察・カード・聞き取り】</p>	<p>①固定施設を使った運動遊びの行い方を知っている。</p> <p>【観察・カード・聞き取り】</p>	
2	<p>固定施設を使って楽しく遊ぶことができる遊び方を選びながら工夫して遊ぶ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・広げる時間（楽しく遊ぶことのできる遊び方を選んで取り組む） ・知る時間（基になる動きの動き方を知る） 	<p>②運動の順番やきまりを守り、友達と仲よく運動をしようとしている。</p> <p>③友達と協力して、準備や片付けをしようとしている。</p> <p>【観察・カード・聞き取り】</p>	<p>②固定施設を使って、楽しく遊ぶことができる遊び方を選んでしている。</p> <p>【観察・カード・聞き取り】</p>	
3	<p>固定施設を使って楽しく遊ぶことができる場や遊び方を選びながら工夫して遊ぶ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・広げる時間（楽しく遊ぶことのできる遊び方を選んで取り組む） ・広げる時間（楽しく遊ぶことのできる場や遊び方を選んで取り組む） 	<p>①固定施設を使った運動遊びに進んで取り組もうとしている。</p> <p>【観察・カード・聞き取り】</p>		<p>①固定施設を使った運動遊びでは、登り下りや懸垂移行、渡り歩きや跳び下り、逆さ姿勢をとったりすることができる。</p> <p>【観察】</p>
4	<p>鉄棒を使った運動遊びの行い方を知り、楽しく遊ぶ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・やってみる時間（今までの経験を基に取り組む） ・知る時間（運動遊びの行い方を知る） 		<p>①鉄棒を使った運動遊びの行い方を知っている。</p> <p>【観察・カード・聞き取り】</p>	
5	<p>鉄棒を使って楽しく遊ぶことができる遊び方を選びながら工夫して遊ぶ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・広げる時間（楽しく遊ぶことのできる場や遊び方を選んで取り組む） ・知る時間（基になる動きの動き方を知る） 		<p>②鉄棒を使って、楽しく遊ぶことができる場や遊び方を選んでしている。</p> <p>【観察・カード・聞き取り】</p>	
6	<p>鉄棒を使って楽しく遊ぶことができる場や遊び方を選びながら工夫して遊ぶ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・広げる時間（楽しく遊ぶことのできる場や遊び方を選んで取り組む） ・広げる時間（楽しく遊ぶことのできる場や遊び方を選んで取り組む） 	<p>①鉄棒を使った運動遊びに進んで取り組もうとしている。</p> <p>【観察・カード・聞き取り】</p>		<p>②鉄棒を使った運動遊びでは、支持しての上がり下り、ぶら下がりや易しい回転をすることができる。</p> <p>【観察】</p>
7	<p>固定施設や鉄棒を使って楽しく遊ぶことのできる場や遊び方を選びながら工夫して遊ぶ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・広げる時間（楽しく遊ぶことのできる場や遊び方を選んで取り組む） ・広げる時間（楽しく遊ぶことのできる場や遊び方を選んで取り組む） 			<p>①固定施設を使った運動遊びでは、登り下りや懸垂移行、渡り歩きや跳び下り、逆さ姿勢をとったりすることができる。</p> <p>②鉄棒を使った運動遊びでは、支持しての上がり下り、ぶら下がりや易しい回転をすることができる。</p> <p>【観察】</p>

【進んだ段階】

時間	主な学習活動	学習活動に即した評価規準【評価方法】		
		運動への関心・意欲・態度	運動についての思考・判断	運動の技能
1	<p>固定施設や鉄棒を使って安全に楽しく遊ぶ</p> <p>・やってみる時間（今までの経験を基に取り組む）</p>	<p>④運動をする場や固定施設や鉄棒の使い方などの安全に気を付けようとしている。 【観察・カード・聞き取り】</p>		
2	<p>固定施設や鉄棒を使って楽しく遊ぶことができる場や遊び方を知る</p> <p>・知る時間（固定施設での運動遊びの行い方を知る）</p> <p>・知る時間（鉄棒での運動遊びの行い方を知る）</p>	<p>②運動の順番やきまりを守り、友達と仲よく運動をしようとしている。</p> <p>③友達と協力して、準備や片付けをしようとしている。 【観察・カード・聞き取り】</p>	<p>①固定施設や鉄棒を使った運動遊びの行い方を知っている。 【観察・カード・聞き取り】</p>	
3	<p>固定施設や鉄棒を使って楽しく遊ぶことができる場や遊び方を知る</p> <p>・知る時間（固定施設での運動遊びの行い方を知る）</p> <p>・知る時間（鉄棒での運動遊びの行い方を知る）</p>	<p>①固定施設や鉄棒を使った運動遊びに進んで取り組もうとしている。 【観察・カード・聞き取り】</p>		<p>①固定施設を使った運動遊びでは、登り下りや懸垂移行、渡り歩きや跳び下り、逆さ姿勢をとったりすることができる。</p> <p>②鉄棒を使った運動遊びでは、支持しての上がり下り、ぶら下がりや易しい回転をすることができる。【観察】</p>
4	<p>友達のよい動きを見付けながら工夫して楽しく遊ぶ</p> <p>・広げる時間（固定施設で楽しく遊ぶことのできる場や遊び方を選んで取り組む）</p> <p>・広げる時間（鉄棒でグループで基になるお話を工夫したり友達のよい動きを見付けたりしながら取り組む）</p>		<p>③鉄棒を使った運動遊びの中で友達のよい動きを見付けている。 【観察・カード・聞き取り】</p>	
5	<p>友達のよい動きを見付けながら工夫して楽しく遊ぶ</p> <p>・広げる時間（固定施設で楽しく遊ぶことのできる場や遊び方を選んで取り組む）</p> <p>・広げる時間（鉄棒でグループで基になるお話を工夫したり友達のよい動きを見付けたりしながら取り組む）</p>			<p>②鉄棒を使った運動遊びでは、支持しての上がり下り、ぶら下がりや易しい回転をすることができる。【観察】</p>
6	<p>友達のよい動きを見付けながら工夫して楽しく遊ぶ</p> <p>・広げる時間（鉄棒でグループで基になるお話を工夫したり友達のよい動きを見付けたりしながら取り組む）</p> <p>・広げる時間（鉄棒で楽しく遊ぶことのできる場や遊び方を選んで取り組む）</p>	<p>①固定施設や鉄棒を使った運動遊びに進んで取り組もうとしている 【観察・カード・聞き取り】</p>	<p>③鉄棒を使った運動遊びの中で友達のよい動きを見付けている。 【観察・カード・聞き取り】</p>	
7	<p>友達のよい動きを見付けながら工夫して楽しく遊ぶ</p> <p>・広げる時間（鉄棒でグループで基になるお話を工夫したり友達のよい動きを見付けたりしながら取り組む）</p> <p>・広げる時間（鉄棒で楽しく遊ぶことのできる場や遊び方を選んで取り組む）</p>			<p>②鉄棒を使った運動遊びでは、支持しての上がり下り、ぶら下がりや易しい回転をすることができる。【観察】</p>

② 観点別評価の進め方

ア 「運動への関心・意欲・態度」の評価の方法の例

学習カードへの記述や授業時の観察、児童への聞き取りにより評価を行う。

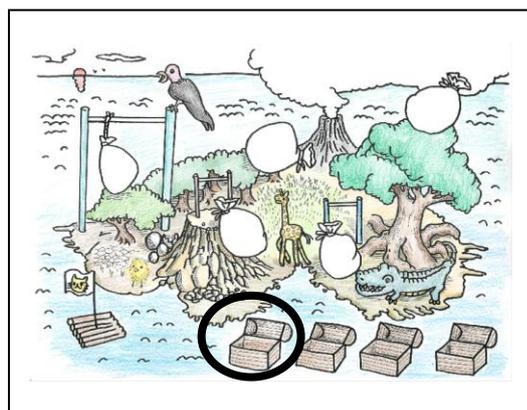
(ア) 授業時の観察

次のような「児童の具体的な姿」を想定して評価を行う。

項目	「おおむね満足できる」状況と判断できる児童の具体的な姿	「十分満足できる」状況と判断できる児童の具体的な姿
意欲	<ul style="list-style-type: none"> 繰り返し運動している。 教師の説明を聞いている。 	<ul style="list-style-type: none"> 左記の状況がいつもできる。 友達の動きを見ている。
公正・協力	<ul style="list-style-type: none"> 順番やきまりを守って運動している。 友達と仲よく運動している。 友達と一緒に用具の準備や片付けをしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 左記の状況がいつもできる。 友達と励まし合っている。
安全	<ul style="list-style-type: none"> 自分の順番が終わったら、次の人に合図をしている。 危険なものがないか確認している。 安全な握り方を意識している 	<ul style="list-style-type: none"> 左記の状況がいつもできる。 場の危険物を取り除いている。 遊びの前の安全を確認している。

(イ) 学習カードの活用

- 学習カードに関心・意欲・態度に関する振り返りができる宝箱（右図下方）を設定する。本時の重点項目（態度面）について自己評価をし、できていたらしるし（丸やシール等）をつけさせる。



(ウ) 聞き取り

- 学習カードや観察による評価を補うために学習カード記入時や教室で直接児童から聞く。（毎時間、人数を決めて聞いていく）

イ 「運動についての思考・判断」の評価の方法の例

学習カードへの記述や授業時の観察、児童への聞き取りにより評価を行う。

(ア) 授業時の観察

次のような「児童の具体的な姿」を想定し、教師の発問（場や遊び方の選択、友達のよい動きを見付ける等の遊び方の工夫に関して）に対する児童の反応を観る。

項目	「おおむね満足できる」状況と判断できる児童の具体的な姿の例	「十分満足できる」状況と判断できる児童の具体的な姿の例
知る	<ul style="list-style-type: none"> 固定施設や鉄棒を使った運動遊びの行い方を理解している。 固定施設や鉄棒を使つての運動遊びの動き方を理解している。 	
選ぶ	<ul style="list-style-type: none"> 楽しく遊ぶことができる場や遊び方を選ぶことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 進んで遊びを選んだり新しい遊びを考えたりしている。
※教師が促して選べればおおむね満足できる状況と判断する。自分から進んで選べれば十分満足できる状況である。		
見付ける	<ul style="list-style-type: none"> 鉄棒を使った運動遊びのなかで友達のよい動きを見付けている。（友達のよい動きとは「やってみたい、真似したい」と思う動き） 	<ul style="list-style-type: none"> 友達のよい動きを具体的に書いたり説明できたりする。



もっと、ほかの遊び方があるかな？

友達を見て、やってみたい、真似したいと思う遊びはありましたか？

「新しくこんな遊び方があるよ。」

〇〇君の逆さになってじゃんけんしている遊びが真似したいな。

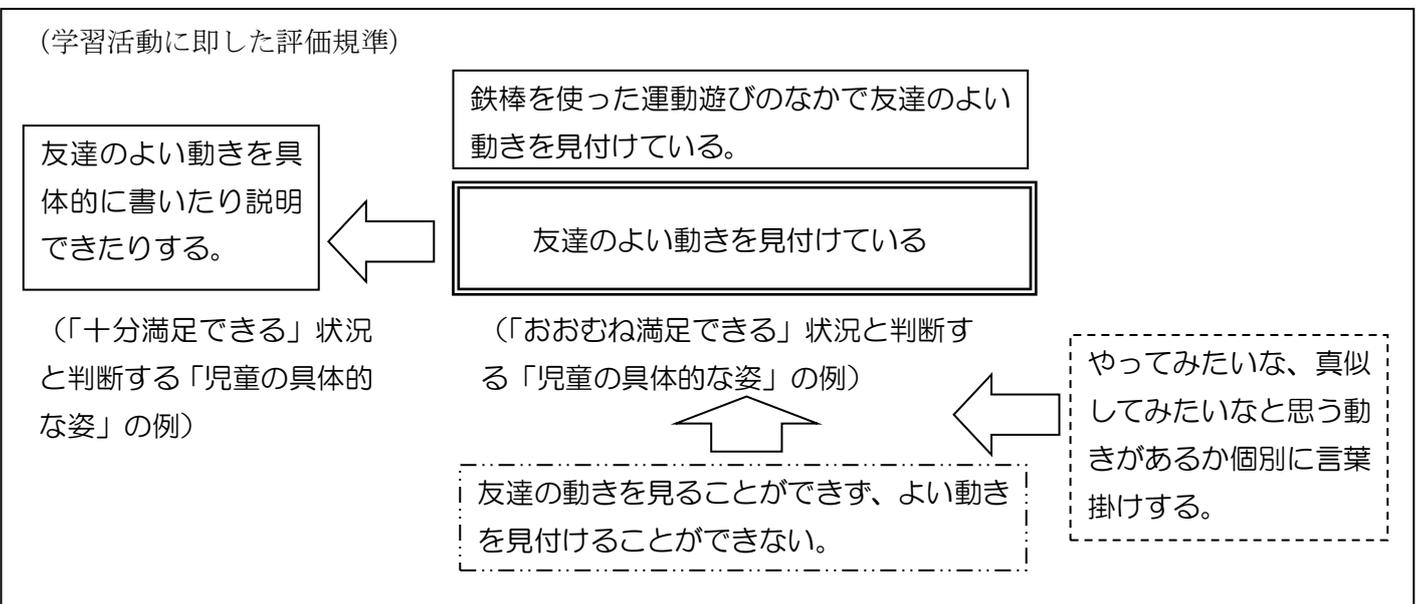
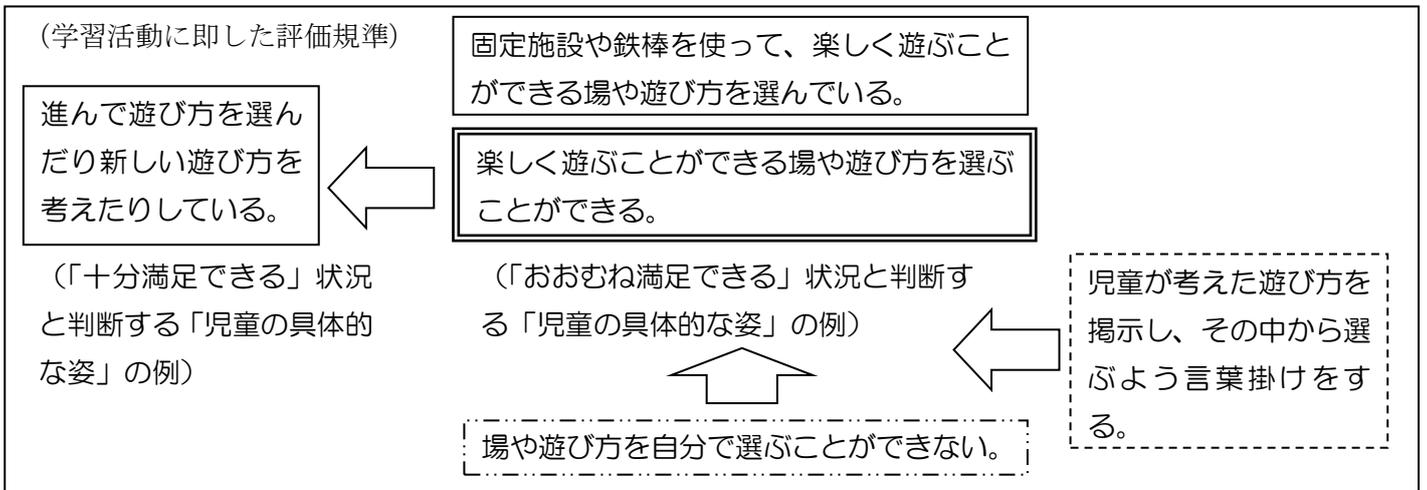
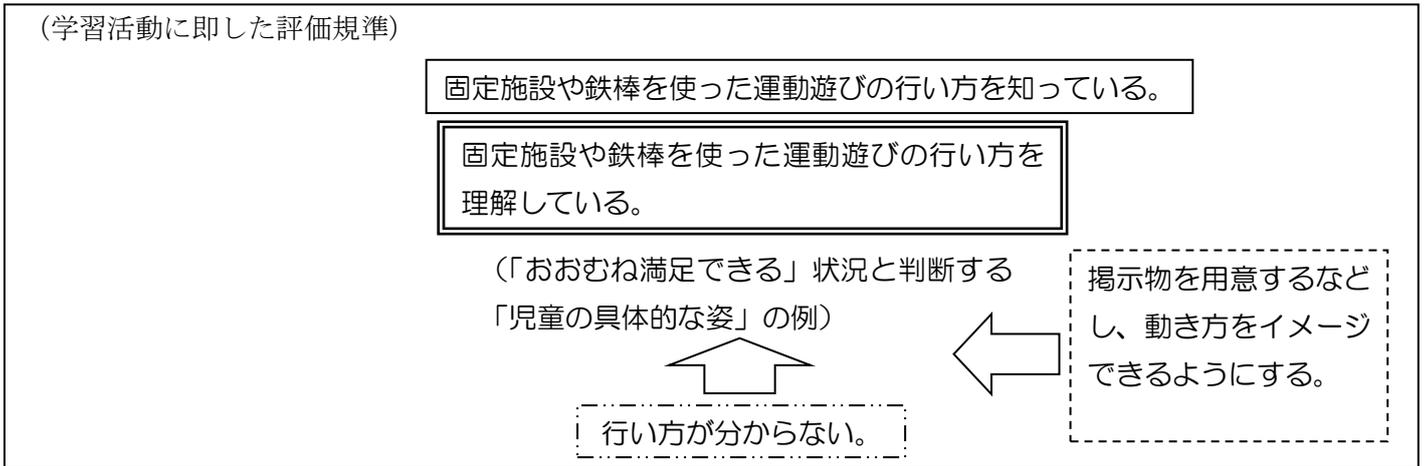
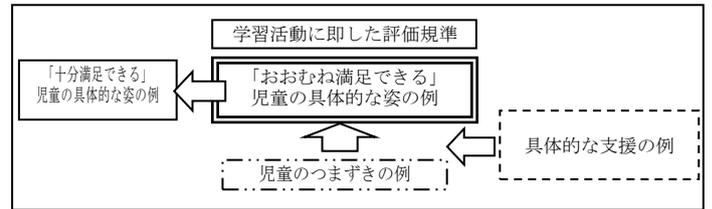


児童 A



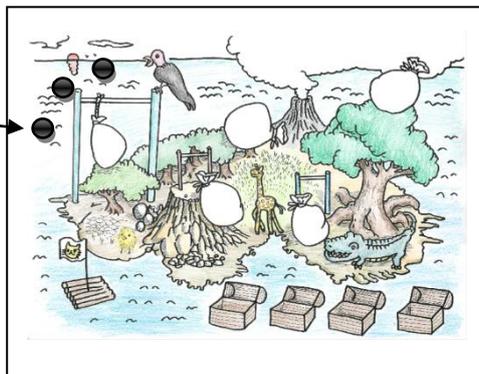
児童 B

◎「学習活動に即した評価規準」に
 基づく児童の姿の例と支援の例（思考・判断）



(イ) 学習カードの活用

- ・学習カードにある基になる動きの周りに、行った遊び方の数に応じて丸を付け、掲示用には、自分が楽しかったと思う遊び方にシールを貼ることで遊び方を選んでいくかどうかを見取ることができる。



(ウ) 聞き取り

- ・学習カードや観察による評価を補うために学習カード記入時や教室で直接児童から聞く。(毎時間、人数を決めて聞いていく)

ウ 「運動の技能」の評価の方法の例

- ・授業時の観察

例示されている動きを明確にして、授業時に観察して技能を評価する。

例示	基になる動き	「おおむね満足できる」状況と判断できる児童の具体的な姿の例	「十分満足できる」状況と判断できる児童の具体的な姿の例
跳び上がり		<ul style="list-style-type: none"> ・跳び上がって支持することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・跳び上がって支持することを連続してできる。 ・より高い場所に跳び上がって支持することができる。
跳び下り		<ul style="list-style-type: none"> ・支持から跳び下りることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・支持から跳び下りることを連続してできる。 ・ねらった場所に跳び下りることができる。 ・より高い場所から跳び下りることができる。
ぶら下がり		<ul style="list-style-type: none"> ・両手でぶら下がって振動することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・より大きく振動することができる。 ・より長くぶら下がって振動することができる。 ・振動の大小を調整することができる。
		<ul style="list-style-type: none"> ・片膝をかけた振動をすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・より大きく振動することができる。 ・より長くぶら下がって振動することができる。 ・両方の膝で振動することができる。 ・振動の大小を調整することができる。
		<ul style="list-style-type: none"> ・腹をかけてぶら下がることことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・振動することができる。
易しい回転		<ul style="list-style-type: none"> ・支持の姿勢から前に回って下りることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・支持の姿勢から前に回って下りることが連続してできる。 ・より高い場所で支持の姿勢から前に回って下りることができる。
		<ul style="list-style-type: none"> ・両手でぶら下がって足抜き回りをすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・両手でぶら下がって足抜き回りをすることが連続してできる。 ・鉄棒に足が当たらずに足抜き回りができる。

③児童のつまずきと具体的な支援について

基になる動きは、児童が今までに経験してきている動きから選んでいるので、ほとんどの児童ができると考えられる。しかし、就学前の運動経験などにより、この動きをするのが困難な場合も考えられる。そこで、具体的な支援を考えた。

	場	基になる動き	つまずき	具体的な支援	
固定施設を使った運動遊び	ジャングルジム	○登る・下りる ○渡り歩く ○逆さになる	手足を置く位置が分からない。	・手足を置く位置にカラーテープを貼り、視覚的に分かりやすくする。教師が手や足の置く場所を指示する。	
			怖くてできない。	・低いところで高さに慣れさせる。 ・教師が腰を支える。 ・周りにマットを敷く。	
	登り棒	○登る・下りる	ずるずる落ちてしまう。	・教師がお尻を支え、ももと足の2か所で棒を挟めるようにする。 ・教師が足元の棒を握り、足がかりを作って登れるようにする。 ・足の裏と甲で挟むやり方と両足の裏で挟むやり方のどちらがやりやすいかを試す。	
			腕を伸ばせない。	・カラーテープで握る位置を示す。	
	雲梯	○移動	体を前に投げ出せない。	・カラーテープで握る場所を示し、次に握る棒を見るように言葉掛ける。 ・教師が身体を支え、手が前に出るときの体の振りを味わえるようにする。 ・離れた腕はそのまま前に出すのではなく、一度下に下ろしてから前に出すように言葉掛けをする。	
			怖くて手が離せない。	・握っている片方の手を教師が上から押さえて、もう一方の手を離しても落ちない状況をつくる。 ・マットを敷く。	
	たいこ橋	○渡り歩く	怖くてできない。	・教師がたいこ橋の内側から手を押さえて恐怖心をなくす。 ・マットを敷く。	
	鉄棒を使った運動遊び	鉄棒	○跳び上がる ○支える	跳び上がれない。	・低い高さの鉄棒で行う。 ・台を置く。
				肘が曲がってしまう。	・台に乗って鉄棒の上で支持の姿勢をとる。 ・教師が身体を支えて、跳び上がるのを補助し、支持する感覚を味わわせる。
		○跳び下りる	怖くて後ろに跳べない。	・横から教師が補助をする。	
○ぶら下がり		腕の力がなくぶら下がれない。	・固定施設で行うよう言葉をかけ、易しい条件で行えるようにする。 ・教師が腰を支える。少しずつ腕に負荷がかかるようにする。		
○回る		怖くて体を前に倒せない。	・横から教師が補助をする。 ・固定施設で行うよう言葉をかけ、易しい条件で行えるようにする。		

④検証方法について

今回の提案の検証方法を次のように考えた。

研究仮説

「固定施設・鉄棒を使った運動遊びの学習において、児童が進んでいろいろな動きに取り組んだり、遊び方を工夫したりする学習を進めていくように指導すれば、一人一人が運動を楽しく行い、できる喜びを味わうことができるだろう。」について

- ・児童が進んで運動に取り組んでいたか。
- ・児童が遊び方を工夫する活動になっていたか。
- ・運動を楽しく行っていたか。
- ・児童ができる喜びを味わえたか。

○児童が運動を楽しく行い、できる喜びを味わっている状態について

- ・本部会では低学年の児童が運動を楽しく行い、できる喜びを味わっている状態を次のように捉えた。

- 夢中になり、何度も繰り返し運動に取り組んでいる。
- 自分で動きや遊び方を考え、工夫して取り組んでいる。
- 動きのポイントやコツを体感し、身に付けている。

検証方法は授業の様子をVTRに録画して分析すること、毎授業後のアンケート調査、事前アンケート調査と単元終了後のアンケート調査における数値の変容、さらに事前アンケートにおいて抽出した児童の変容をアンケート結果とVTRを用いて追っていく。

ア 授業の様子を録画したVTRの分析

分析する観点(VTR)	具体的な姿
・基になる動きから、どのように広がっているか。	・体の姿勢、振動や回転の方向などの動きや人数の変更など遊び方を工夫している。 ・新しい遊び方が増えている。遊びが広がっている。

イ 授業後のアンケート調査について

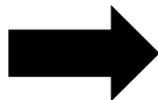
分析する調査項目(アンケート調査)	検証内容
・「今日の学習は楽しかったですか」	・その時間の学習活動が児童にとって楽しめるものであったか。学習を重ねていくと結果は上がっていくのか。
・「今日の学習ではたくさん遊ぶことができましたか」	・児童にとって進んで遊ぶことができるほど意欲を高められる学習活動であったか。
・「今日の学習では工夫して遊ぶことができましたか」	・遊びを工夫することをねらう「広げる」時間は、児童が工夫して遊ぶことにどれほど効果的であったか。
・「今日の学習でできるようになったことがありましたか」	・感覚を身に付けたり、動きができたことがあったか。

ウ 事前アンケート調査と単元終了後のアンケート調査について

事前アンケート

単元終了後のアンケート

・固定施設で遊ぶことは、楽しいと思いますか。



・固定施設を使った運動遊びは楽しかったですか。

・なぜ楽しかったのですか。

いくつでも選んでください。

()たくさん遊ぶことができたから。

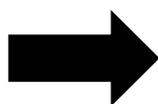
()工夫して遊ぶことができたから。

()できるようになったことがあるから。

事前アンケート

単元終了後のアンケート

・鉄棒で遊ぶことは、楽しいと思いますか。



・鉄棒を使った運動遊びは楽しかったですか。

・なぜ楽しかったのですか。

いくつでも選んでください。

()たくさん遊ぶことができたから。

()工夫して遊ぶことができたから。

()できるようになったことがあるから。

- ・楽しかったと答えた児童が増えているか。⇒運動を楽しく行えていたか。
- ・楽しかった理由として、「たくさん遊ぶことができたから」を選んでいる。
⇒進んで運動に取り組めていたか。
- ・楽しかった理由として、「工夫して遊ぶことができたから」を選んでいる。
⇒遊び方を工夫する活動になっていたか。
- ・楽しかった理由として、「できるようになったことがあるから」を選んでいる。
⇒できる喜びを味わえたか。

(ウ)変容を追っていく観察対象児童について
以下の児童の変容を追っていくことにした。

変容を追う児童	検証内容
・鉄棒で遊んだことがないと答えた児童 1人	<ul style="list-style-type: none"> ・毎授業後のアンケート調査で、「今日の学習は楽しかったですか」「今日の学習ではたくさん遊ぶことができましたか」のアンケート結果が向上するか。 ・鉄棒を使って、基になる動きや遊び方の工夫ができていくか。
・鉄棒で遊ぶことがあまり楽しくないと答えた児童 3人	

(4) 中、高学年の指導計画例

【中学年】 ●基本的な技 ○発展技

はじめの段階	1	2	3	4	5	6	7
	基礎となる感覚を身に付ける時間						
	オリエンテーション	知る時間 【下り技】 ●前回り下り ●転向前下り ●両膝掛け倒立下り	知る時間 【上がり技】 ●膝掛け振り上がり ○逆上がり	取り組む時間 【上がり技】 膝掛け振り上がり、逆上がりから選択する。	知る時間 【回転技】 ●かかえ込み回り ●後方片膝掛け回転	取り組む時間 【回転技】 かかえ込み回り、後方片膝掛け回転から選択する。	取り組む時間 【回転技】 かかえ込み回り、後方片膝掛け回転から選択する。 発表会 (組み合わせ)

進んだ段階	1	2	3	4	5	6	7
	基礎となる感覚を身に付ける時間						
	オリエンテーション	知る時間 【下り技】 (●前回り下り) (●転向前下り) ●両膝掛け倒立下り ○片足踏み越し下り (○両膝掛け倒立下り)	知る時間 【上がり技】 ●膝掛け振り上がり ○逆上がり ○膝掛け上がり	取り組む時間 【上がり技】 膝掛け振り上がり、膝掛け上がり、逆上がりから選択する。	知る時間 【回転技】 ●かかえ込み回り ○前方支持回転 ○後方支持回転 ●後方片膝掛け回転 ○前方片膝掛け回転	取り組む時間 【回転技】 かかえ込み回り、前方支持回転、後方片膝掛け回転、前方片膝掛け回転から選択する。	取り組む時間 【回転技】 かかえ込み回り、前方支持回転、後方片膝掛け回転、前方片膝掛け回転から選択する。 発表会 (組み合わせ)

【高学年】 ○発展技 ◎更なる発展技

はじめの段階	1	2	3	4	5	6	7
	基礎となる感覚を身に付ける時間						
	オリエンテーション	知る時間 【下り技】 ○片足踏み越し下り ○両膝掛け振動下り 取り組む時間 片足踏み越し下り、両膝掛け振動下りから選択する	知る時間 【上がり技】 ○膝掛け上がり ○逆上がり (◎もも掛け上がり) 取り組む時間 膝掛け上がり、逆上がり、もも掛け上がりから選択する	取り組む時間 【上がり技】 膝掛け振り上がり、逆上がり、もも掛け上がりから選択する。	知る時間 【回転技】 ○前方支持回転 ○後方支持回転 ○前方片膝掛け回転 取り組む時間 前方支持回転、後方支持回転、前方片膝掛け回転から選択する。	取り組む時間 【回転技】 前方支持回転、後方支持回転、前方片膝掛け回転から選択する。	取り組む時間 【回転技】 前方支持回転、後方支持回転、前方片膝掛け回転から選択する。
取り組む時間【組み合わせ技】							

進んだ段階	1	2	3	4	5
	基礎となる感覚を身に付ける時間				
	オリエンテーション	取り組む時間 すべての例示から選択する			
取り組む時間【組み合わせ技】					

※どの段階でも単元のはじめにオリエンテーションを設定し、場の準備、片付けの仕方、基礎となる感覚を身に付ける運動や1時間の進め方を知るなどの学習を行う。

【中・高学年における各時間に設定した学習活動について】

基礎となる感覚を身に付ける時間

- 技に結びつく基礎となる感覚を身に付けたり、技につながる運動をしたりする。
- 主運動を行うために体を慣らしたり、あたためたり、器械・器具に慣れたりする。
- 今もっている力で取り組む。

知る時間（技のポイントや練習方法、自分の課題を知る時間）

- 技の動き方を知る。
- 技のポイントや練習方法、グループ学習、補助の仕方を知る。
- 自分の課題を知る。
 （中学年：自分の力に応じた練習方法や練習の場を選んで練習に取り組むことで、課題を知る）
 （高学年：自分の課題に応じた練習方法や練習の場を知る）

取り組む時間（技を身に付けるための時間）

○単技や動きに取り組む

- ・自分の力に応じた技や練習方法を選び、めあて「**技+ポイント+練習方法・場**」をつかむ。
- ・めあて達成に向けて練習する。
- ・できない技をできるようにしたり、できる技を安定してできるようにしたりする。
- ・学習資料を活用しながら、グループの友達と教え合う。
- ・基本的な技を身に付けた児童は発展技や更なる発展技に取り組む。

○技の組み合わせや繰り返しに取り組む

- ・自分の力に応じためあて「**技の組み合わせ**」をもつ。
- ・めあて達成に向けて練習する。

【繰り返し、組み合わせについて】

〈中学年〉

- ・基本的な技に十分取り組んだ上で、技を繰り返したり、組み合わせたりする。
- ・基本的な技ができる児童は、「取り組む時間」に繰り返し、組み合わせに取り組む。

〈高学年〉

- ・できるようになった技に十分にに取り組んだ上で、技を繰り返したり組み合わせたりする。
 （繰り返しは3回取り組む。組み合わせは、上がる→回る→下りる、の組み合わせを行う。）

【発表会について】

中学年	高学年
<ul style="list-style-type: none"> ・時間をかけずに短時間で行う。 ・取り組む前に技名などを伝える。 ・見る児童は、安全面に気を付けて周りで見ると。 	<ul style="list-style-type: none"> ・繰り返したり、組み合わせたりして技を発表する。 ・知る時間に取り組むグループ2つで見合う。
<ul style="list-style-type: none"> ・単技を発表する。繰り返しや組み合わせを発表してもよい。 ・知る時間に取り組むグループ2つで見合う。 （お互いの成長が見取りやすい）。 	<ul style="list-style-type: none"> ・繰り返したり、組み合わせたりして技を発表する。 ・知る時間に取り組むグループ2つで見合う。 （お互いの成長が見取りやすい）。

- ・3、4年生では、基本的な例示技を全て経験させ、6年生終了時には、上がり技、支持回転技、下り技をそれぞれ一つずつはできるようにし、それを組み合わせることができるようにする。
- ・技は、習得しやすい下り技から取り組むこととし、達成率が低い支持回転技は時間を確保するようにする。
- ・単元の時数は、学校や学級の実態による。

5 学習指導案

日 時 平成28年10月31日(月)
 場 所 江戸川区立第六葛西小学校
 対 象 第1学年3組29名
 授業者 下重 卓也
 担 任 川名 歩香

(1) 単元名

固定施設・鉄棒を使った運動遊び「ぼうけんじまへ レッツゴー」

(2) 単元の目標

技能	固定施設・鉄棒を使った運動遊びを楽しく行い、登り下り、懸垂移行、渡り歩きや跳び下りや支持しての上がり下り、ぶら下がり、易しい回転をすることができるようにする。
態度	運動に進んで取り組み、きまりを守り仲よく運動したり、場の安全に気を付けたりすることができるようにする。
思考・判断	器械・器具を用いた簡単な遊び方を工夫できるようにする。

(3) 単元及び学習活動に即した評価規準

観点	単元の評価規準	学習活動に即した評価規準
運動への 関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> 固定施設や鉄棒を使った運動遊びに進んで取り組むとともに、順番やきまりを守り、仲よく運動しようとしたり、運動する場の安全に気を付けようとしたりしている。 	<ol style="list-style-type: none"> 固定施設や鉄棒を使った運動遊びに進んで取り組もうとしている。 運動の順番やきまりを守り、友達と仲よく運動をしようとしている。 友達と協力して、準備や片付けをしようとしている。 運動をする場や固定施設や鉄棒の使い方などの安全に気を付けようとしている。
運動についての 思考・判断	<ul style="list-style-type: none"> 固定施設や鉄棒を使った運動遊びの行い方を知るとともに、運動をする場を変えながら、いろいろな運動の仕方を身に付けている。 固定施設や鉄棒を使った運動遊びの動き方を知るとともに、友達のよい動きを見付けている 	<ol style="list-style-type: none"> 固定施設や鉄棒を使った運動遊びの行い方を知っている。 固定施設や鉄棒を使って、楽しく遊ぶことができる場や遊び方を選んでいる。 鉄棒を使った運動遊びの中で友達のよい動きを見付けている。
運動の技能	<ul style="list-style-type: none"> 固定施設を使った運動遊びでは登り下りや懸垂移行、渡り歩きや跳び下りをして遊んだりすることができる。 鉄棒を使った運動遊びでは、支持しての上がり下り、ぶら下がりや易しい回転などができる。 	<ol style="list-style-type: none"> 固定施設を使った運動遊びでは、登り下りや懸垂移行、渡り歩きや跳び下り、逆さ姿勢をとったりすることができる。 鉄棒を使った運動遊びでは、支持しての上がり下り、ぶら下がりや易しい回転をすることができる。

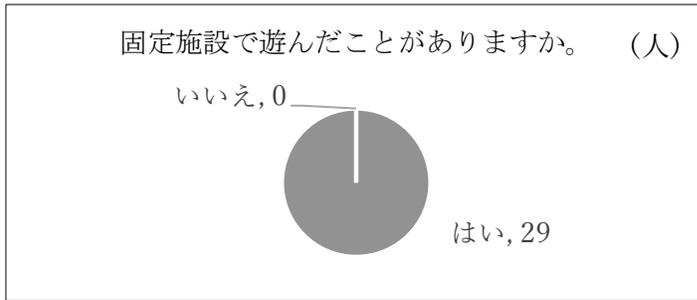
(4) 運動の特性

○いろいろな運動に楽しく取り組んで、自分の力にふさわしい動きを身に付けたときに喜びを味わうことのできる運動である。

(5) 児童の実態

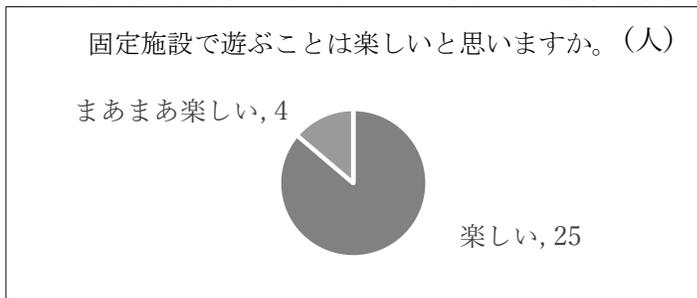
意識調査 (回答数 29 名) H28 年 9 月実施 質問紙 江戸川区立第六葛西小学校第 1 学年 3 組

- ① 固定施設 (登り棒、ジャングルジム、たいこ橋、雲梯) のどれかで遊んだことはありますか。



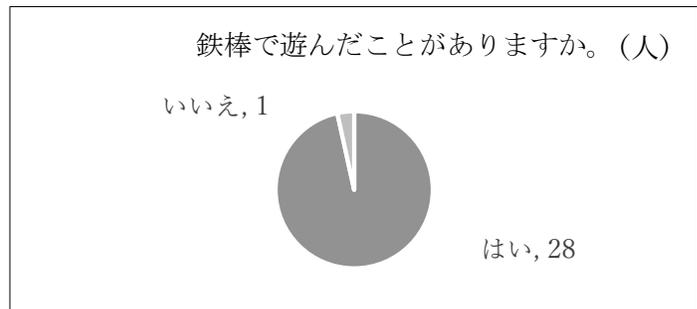
〈結果〉
学級の全員 (29 人) が、固定施設 (登り棒、ジャングルジム、たいこ橋、雲梯) のいずれかで遊んでいる経験がある。

- ② 固定施設 (登り棒、ジャングルジム、たいこ橋、雲梯) のどれかで遊ぶことは楽しいと思いますか。



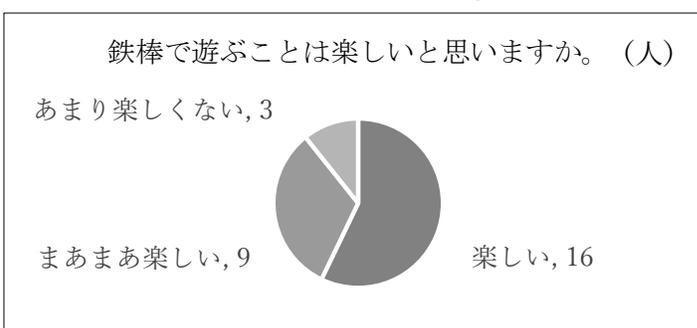
〈結果〉
固定施設で遊ぶことが楽しいと感じている児童が 29 人中 25 人いた。
まあまあ楽しいと答えている児童は 4 人いた。学級の全員が肯定的である。

- ③ 鉄棒で遊んだことはありますか。



〈結果〉
29 人中 28 人が鉄棒の経験があることが分かった。学級の中で 1 人だけ鉄棒の経験がない児童がいる。

- ④ 鉄棒で遊ぶことは楽しいと思いますか。



〈結果〉 (鉄棒の経験がある 28 人に調査)
鉄棒で遊ぶことが楽しいと答えている児童が 28 人中 16 人いた。まあまあ楽しいと答えている児童が 9 人、3 人の児童はあまり楽しくないと答えている。

【考察】

以上のことから、ほとんどの児童が、固定施設や鉄棒で遊んだ経験があり、固定施設や鉄棒で遊ぶことが楽しいと感じていることが分かった。一方で、わずかな差ではあったが、鉄棒で遊ぶことより固定施設で遊ぶことの方が楽しいと感じている児童が多いということが分かった。鉄棒があまり楽しくないと答えている児童に聞き取りを行ったところ、できないからあまり楽しくないということがわかった。

(6) 単元の指導と評価の計画

時間		1	2	3
指導のねらい		固定施設を使った運動遊びの行い方や動き方を知り、遊び方を工夫しながら、基本的な動きを身に付けるようにする。		
学習内容・活動		1 集合・整列・挨拶 2 準備運動 3 学習の流れの確認		
		4 やってみる時間 【雲梯、たいこ橋、登り棒、ジャングルジム】 ○今までの遊びの経験を基に固定施設で遊ぶ。	4 広げる時間 固定施設を使った運動遊び ○知る時間で出てきた遊び方から選んだり、さらに遊び方を考えたりして取り組む。 【第2時：ジャングルジム、雲梯】 【第3時：登り棒、たいこ橋】	
		5 知る時間 固定施設を使った運動遊び ○それぞれの場で基になる動きを知り、2つのグループに分かれて取り組む。 ○基になる動きの遊び方を工夫して取り組む。 【第1時：ジャングルジム、雲梯】 【第2時：登り棒、たいこ橋】	5 広げる時間 固定施設を使った運動遊び 【雲梯、たいこ橋、登り棒、ジャングルジム】 ○4つの場から楽しく遊べる場と遊び方を選んで取り組む。	
		6 整理運動 7 学習の振り返り 8 学習のまとめ 9 集合・整列・挨拶		
教師の働きかけ		基になる動きを示した掲示物を提示し、それを見ながら遊べるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> ・はじめにどの遊び方で遊びたいかを確認する。 ・遊び方を工夫している児童を積極的に称賛し、学級全体に紹介する。 ・見付けた遊び方は掲示資料に加える。 	
指導する内容	技能	固定施設を使って、登り下りや懸垂移行、跳び下りをして遊ぶことができるようにすること。		
	態度	運動に進んで取り組み、きまりを守り仲よく運動をしたり、場の安全に気を付けたりすることができるようにすること。		
	思考・判断	固定施設を使った運動遊びの行い方や動き方を知り、遊び方を工夫すること。		
学習活動に即した評価規準	運動への関心・意欲・態度	④	②③	①
	運動についての思考・判断	①	②	
	運動の技能			①
指導と評価の工夫【方法】	具体的な支援の例	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 30%;"> <p>[運動への関心・意欲・態度] ④運動をする場や固定施設の使い方などの安全に気を付けようとしている。 【観察・カード・聞き取り】</p> <p>安全に遊ぶために、握り方や順番の待ち方等を指導する。</p> </div> <div style="width: 30%;"> <p>[運動への関心・意欲・態度] ②運動の順番やきまりを守り、友達と仲よく運動をしようとしている。 ③友達と協力して、準備や片付けをしようとしている。 【観察・カード・聞き取り】</p> <p>順番を守ったり、協力して準備や片付けをしたりしている児童を称賛する。</p> </div> <div style="width: 30%;"> <p>[運動への関心・意欲・態度] ①固定施設を使った運動遊びに進んで取り組もうとしている。 【観察・カード・聞き取り】</p> <p>繰り返し運動したり、楽しく運動したりしている児童を見取り、称賛する</p> </div> </div>		
		<p>[運動についての思考・判断] ①固定施設を使った運動遊びの行い方を知っている。 【観察・カード・聞き取り】</p> <p>固定施設を使って基になる動きを様々な工夫して遊ぶことを理解させる。</p>		
	<p>[運動についての思考・判断] ②固定施設を使って、楽しく遊ぶことができる遊び方を選んでる。 【観察・カード・聞き取り】</p> <p>友達の工夫した遊び方を選んで遊んでよいことを指導する。</p>			
	<p>[運動の技能] ①固定施設を使った運動遊びでは、登り下りや懸垂移行、渡り歩きや跳び下り、逆さ姿勢をとったりすることができる。【観察】</p> <p>基になる動きができているかを見取り、できていない場合には補助をする。</p>			

4	5 (本時)	6	7
鉄棒を使った運動遊びの行い方や動き方を知り、遊び方を工夫しながら、基本的な動きを身に付けるようにする。			遊び方を工夫しながら、基本的な動きを身に付けるようにする。
1 集合・整列・挨拶 2 準備運動 3 学習の流れの確認			
4 やってみる時間 ○今までの遊びの経験を基に鉄棒で遊ぶ。	5 広げる時間 鉄棒を使った運動遊び ○知る時間に出てきた遊び方から選んだり、さらに遊び方を考えたりして取り組む。 【第5時：跳び上がり・支持、跳び下り】 【第6時：ぶら下がり、易しい回転】	4 広げる時間 固定施設を使った運動遊び ○4つの場から楽しく遊べる遊び方を選んで取り組む。	5 広げる時間 鉄棒を使った運動遊び ○4つの動きから楽しく遊べる遊び方を選んで取り組む。
5 知る時間 鉄棒を使った運動遊び ○基になる動きを知り、取り組む。 ○基になる動きの遊び方を工夫して取り組む。 【第4時：跳び上がり・支持、跳び下り】 【第5時：ぶら下がり、易しい回転】	5 広げる時間 鉄棒を使った運動遊び ○4つの動きから楽しく遊べる遊び方を選んで取り組む。	6 整理運動 7 学習の振り返り 8 学習のまとめ 9 集合・整列・挨拶	
基になる動きを示した掲示物を提示し、それを見ながら遊べるようにする。	・はじめにどの遊び方で遊びたいかを確認する。 ・遊び方を工夫している児童を積極的に称賛し、学級全体に紹介する。 ・見付けた遊び方は掲示資料に加える。	固定施設と鉄棒でそれぞれ遊びたい場と遊び方を選べるようにする。	
鉄棒を使って、支持しての上がり下り、ぶら下がりや易しい回転などの遊びができるようにすること。			固定施設や鉄棒を使って工夫した遊びができるようにすること。
運動に進んで取り組み、きまりを守り仲よく運動をしたり、場の安全に気を付けたりすることができるようにすること。			
鉄棒を使った運動遊びの行い方や動き方を知り、遊び方を工夫すること。			遊び方を工夫すること。
		①	
①	②		
		②	①②
[運動についての思考・判断] ①鉄棒を使った運動遊びの行い方を知っている。 【観察・カード・聞き取り】 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">鉄棒を使って基になる動きを様々な工夫して遊ぶことを理解させる。</div>	[運動についての思考・判断] ②鉄棒を使って、楽しく遊ぶことができる遊び方を選んでいく。【観察・カード・聞き取り】 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">友達の工夫した遊び方を選んで遊んでよいことを指導する。</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">選ぶことが困難な児童には、掲示物を活用して選ぶように言葉掛けする。</div>	[運動への関心・意欲・態度] ①鉄棒を使った運動遊びに進んで取り組もうとしている。【観察・カード・聞き取り】 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">進んで取り組むことができない児童には理由を聞き取り、その内容にあった言葉掛けをする。</div> [運動の技能] ②鉄棒を使った運動遊びでは、登り下りや懸垂移行、渡り歩きや跳び下り、逆さ姿勢をとったりすることができる。【観察】 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">基になる動きができていないかを見取り、できていない場合には固定施設で補助をしながら感覚を身に付けられるようにする。</div>	[運動の技能] ①固定施設を使った運動遊びでは、登り下りや懸垂移行、渡り歩きや跳び下り、逆さ姿勢をとったりすることができる。【観察】 ②鉄棒を使った運動遊びでは、支持しての上がり下り、ぶら下がりや易しい回転をすることができる。【観察】 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">基になる動きができていないかを見取り、できていない場合には固定施設で行ったり補助をしたりしながら感覚を身に付けられるようにする。</div>

(5) 本時の学習 7時間扱い【第5時】

技能	支持しての上がり下り、ぶら下がり、易しい回転をすることができるようにする。
態度	鉄棒を使った運動遊びに進んで取り組むことができるようにする。
思考・判断	鉄棒を使って、楽しく遊ぶことができる場や遊び方を選んでいる。

児童の学習活動	○教師の支援 ☆評価【評価方法】								
(1) 集合・整列・挨拶 (2) 準備運動 (3) 学習の流れの確認	○服装の確認をする。 ○音楽に合わせて楽しく行えるようにする。 ○体慣らしとして鉄棒でやりたい遊びに取り組む。								
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: 80%;"> あそびかたを くふうして ぼうけんしよう！ </div>									
(4) 広げる時間 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> ・前時に行った基になる動き 【跳び上がり・支持】【跳び下り】 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・知る時間に出てきた遊び方からやってみ たい遊び方を選んだり、さらに遊び方 を考えたりして取り組む。 ・自分が取り組みたい高さの鉄棒を選ん で取り組む。 ・広げる時間を振り返り、1番楽しか った遊び方にシールを貼る。 ・個人のカードに工夫して遊んだ遊び 方の数分かるように○を書く。 ・遊び方の工夫を共有する。 	○前時に出てきた遊び方を掲示資料に 加えておき、遊び方を工夫して遊 べるようにする。 ○どの遊び方で遊びたいかを確認す る。 ○新しい遊び方を考えたら、友達に紹 介するよう言葉掛けをする。 ○同じグループの友達の遊び方を見 るよう言葉掛けをする。 ○体の姿勢、振動や回転の方向など の動きや高さ、人数などの遊び 方の工夫が出たときにその遊び 方を広げていく。 ☆鉄棒を使って、楽しく遊ぶことが できる場や遊び方を選んでいる。 (思考・判断)【観察・カード・聞き 取り】								
(5) 知る時間 <ul style="list-style-type: none"> ・全員で基になる動きに取り組む。 ・自分が取り組みたい高さの鉄棒を 選び、遊び方を工夫して遊ぶ。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 10px; border-right: 1px solid black; height: 20px;"></td> <td style="text-align: center;">ぶら下がり</td> </tr> <tr> <td style="border-right: 1px solid black; text-align: center;">↓</td> <td style="text-align: center;">遊び方の工夫を全体で共有</td> </tr> <tr> <td style="width: 10px; border-right: 1px solid black; height: 20px;"></td> <td style="text-align: center;">易しい回転</td> </tr> <tr> <td style="border-right: 1px solid black; text-align: center;">↓</td> <td style="text-align: center;">遊び方の工夫を全体で共有</td> </tr> </table> </div>		ぶら下がり	↓	遊び方の工夫を全体で共有		易しい回転	↓	遊び方の工夫を全体で共有	○どの児童も基になる動きに取 り組みやすいように、はじめは 取り組む鉄棒の高さをグルー プごとに決める。 ○遊び方を工夫できない児童 には友達の遊び方を真似し たり、一緒に遊んだりする よう言葉掛けする。
	ぶら下がり								
↓	遊び方の工夫を全体で共有								
	易しい回転								
↓	遊び方の工夫を全体で共有								
(6) 整理運動 (7) 学習の振り返り (8) 学習のまとめ (9) 集合・整列・挨拶	○運動で使った体の部位を中 心に、リラックスしながら 行えるようにする。 ○どんな遊び方の工夫をして 遊んだのが楽しかったかを 振り返らせる。 ○次時では工夫した遊び方 の中から自分がやりたい遊 び方を選んで遊べることを 伝え、意欲をもたせる。 ○休み時間に取り組んだ遊 び方も先生に伝えてよいと する。								